

19
20

漁村高齢者活力促進事業

鹿児島県伝統漁具漁法集

定 置 網

平成2年3月

鹿児島県

は　　じ　　め　　に

この漁具漁法図集は，県下の沿岸で操業されている定置網漁業について，水産業改良普及員が調査した結果をとりまとめたものです。

本県における定置網漁業は古い歴史があり，漁具，漁撈機器の改良等色々な変遷を経た現在も，沿岸における重要な漁業の一つとなっています。

本書が，過去の資料を記録として残すとともに，今後の定置網漁業の改良，普及等に当たっての参考になれば幸いと存じます。

最後に，調査や取りまとめにあたり種々御協力いただきました多くの方々に対し御礼申し上げます。

平成2年3月

鹿児島県水産振興課長 茂 利 敦 雄

目 次

1. 沿 草	1
1) 定置網漁業の推移	1
2) 漁 具 図	3
a. 鰯 大 敷 網	3
b. 鰯 大 敷 網	4
c. 鰯 大 謀 網	5
2. 現 況	6
1) 定置網設置状況	6
2) 経 営 形 態	7
3) 操 業 時 期	7
4) 大 型 定 置 漁 場	8
5) 漁 具 ・ 漁 法	9
a. 大型定置網（落網）	9
b. 小型定置網（落網）	23
c. 小型定置網（ます網）	32
3. 付 属 資 料	40
1) 県内定置網位置図	41
2) 新聞記事にみる昭和初期の定置漁業状況	55

1. 沿革

1) 定置網漁業の推移

鹿児島県水産調査報告（明治36年）、鹿児島県定置漁業誌（昭和7年）等によると、鹿児島県における定置漁業は歴史も相当古く、大敷網においては下甕村（現鹿島村）夜萩漁場が元禄年間（1700年前後）島津藩主より蘭牟田地区漁業者16名に何等かの恩賞として与えられ、ワラ網によって操業を開始したといわれている。下甕村青瀬の瀬尾漁場は天明8年（1788年）から、内之浦町津代漁場においては古くより島津藩主が御手網として直接経営されていたものが天保15年（1844年）に民営に移行され、また、高山町東風泊漁場は弘化2年（1845年）に操業が開始された等の数多くの記録がある。これらの大敷網は鮎大敷網であり、鰯大敷網は明治18年（1885年）内之浦において鰯置き廻し網と称する地曳網の網地を改造し、鮎大敷の側に取り付けて操業したのが全国で一番古いのではないかとされている。

この後明治の末にかけて、高山地区、甕島地区に鰯大敷網が普及された。これらの台網類は明治34漁業法施行時において39件が免許されていた。明治41年には初めて落網、桝網が免許されており、明治44年の定置漁業権の免許は台網、落網、桝網、出網、張網、魚入築類合せて394件にのぼっている。

全国においては大正末には大敷網はほとんど大謀網に変わっていったが、本県での大謀網の導入は遅く、大正7年ごろより順次導入ははかられたものの、

- 他県にくらべ海水が著しく透明清澄であり、時期的に鰯が上層を遊泳する時期を主要漁期としていたため、大敷網でも良い成績をあげていた。

- 網の切り換えに多額の資金を要した。

等の理由により導入の速度は遅かった。

昭和6年末で定置漁業権（鰯網）は40件免許されているが、その内訳は大謀網20件、大敷網18件、北海道式落網2件となっている（実稼動は16件）。

大正末期から昭和初期においては好、不漁の波が大きく、休業・再開、行使者の交替、大謀網、落網の導入・改廃が繰り返された。その後昭和10年代には大規模の鰯定置網はほとんど落網に変わっていった。

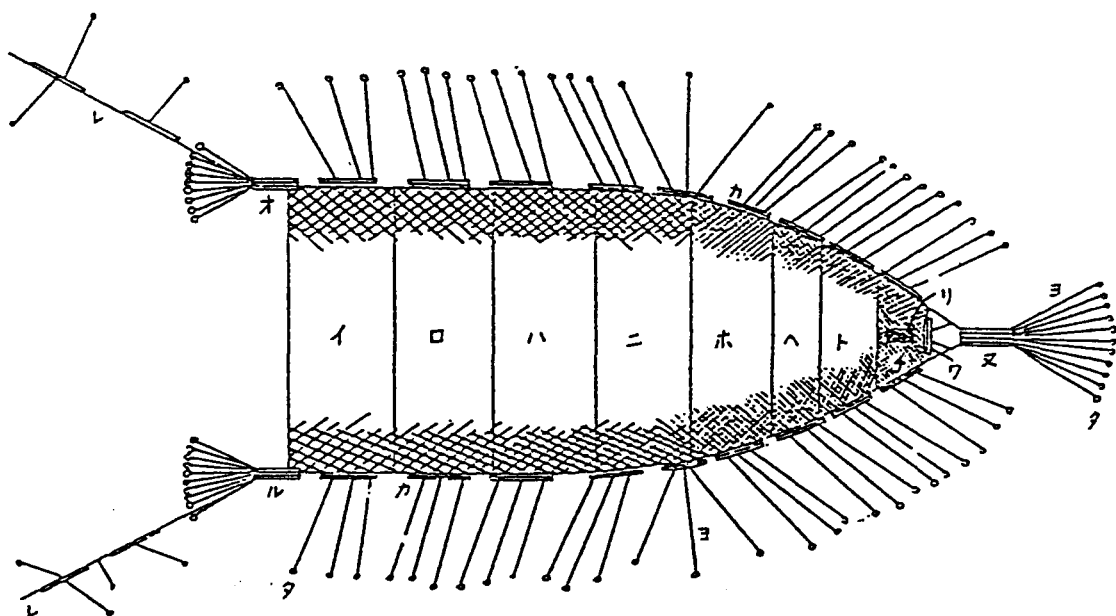
定置網は昭和25年には270件が免許されていたが（大島地区は除く）、新漁業法施行により昭和26年9月漁業権の全面切り換えに伴い、身網の設置水深が27m以上のものは定置漁業権として48件免許され、その他のものは

共同漁業権漁業として切り換えが行なわれた。

昭和30年前後から網地が綿糸から化繊を使用するようになり、網の耐久性、経済性の飛躍的向上がはかられた。又、35年ごろからは碇としてサンドバッグが使用されるようになり大幅な省力化となった。大規模な落網では、かいいい漁協自営定置を皮切りに昭和45年ごろから二段箱の導入・網目の縮少がはかれるものも多くなり、鰯主体の漁獲からほとんどの魚種を対象にしたものに変ってきている。小型定置についても比較的水深があり、潮流の早いところのものは落網が主体であり、ます網類についても昭和45年ごろから昇りのついた箱網に袋網（つば・魚捕り部）をつけた改良つば網の導入がはかられてきており現在主力となっている。

2) 漁 具 図

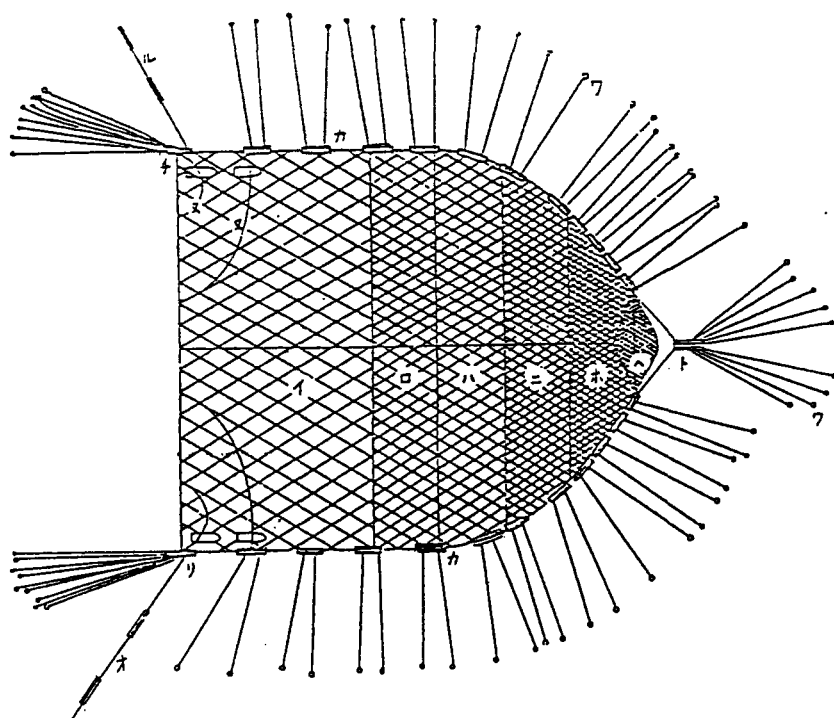
a. 鯖大敷網漁具図



記号	名 称	規 格 , 数 量	記号	名 称	規 格 , 数 量
イ〜ニ	四盛網(藁製)	25掛20尋切,各8反	ル	へ た 端 先	竹 5 間×2 6 本
ホ	にざり網(〃)	8 寸目, 25〜34掛 20 尋切 8 反	オ	お き 端 先	竹 5 間×2 6 本
ヘ	〃 (〃)	5 寸目 34 掛 10 尋切 8 反	ワ	横 切	竹 5 間×5 本
ト	〃 (〃)	4 寸目 34 掛 10 尋切 8 反	カ	側 竹	竹 5 間×6 本
チ	〃 (〃)	3 寸目 34 掛 10 尋切 8 反	ヨ	碇 網	藁 縄
リ	織 子 網	3 間×3 尺 5 反	タ	碇	藁製袋に石詰め
ヌ	網 尻 側 竹	5 間×2 4 本	レ	み ち 網	藁製垣網

まぐろ大敷網 西加世田村字野間池 (明治35年)

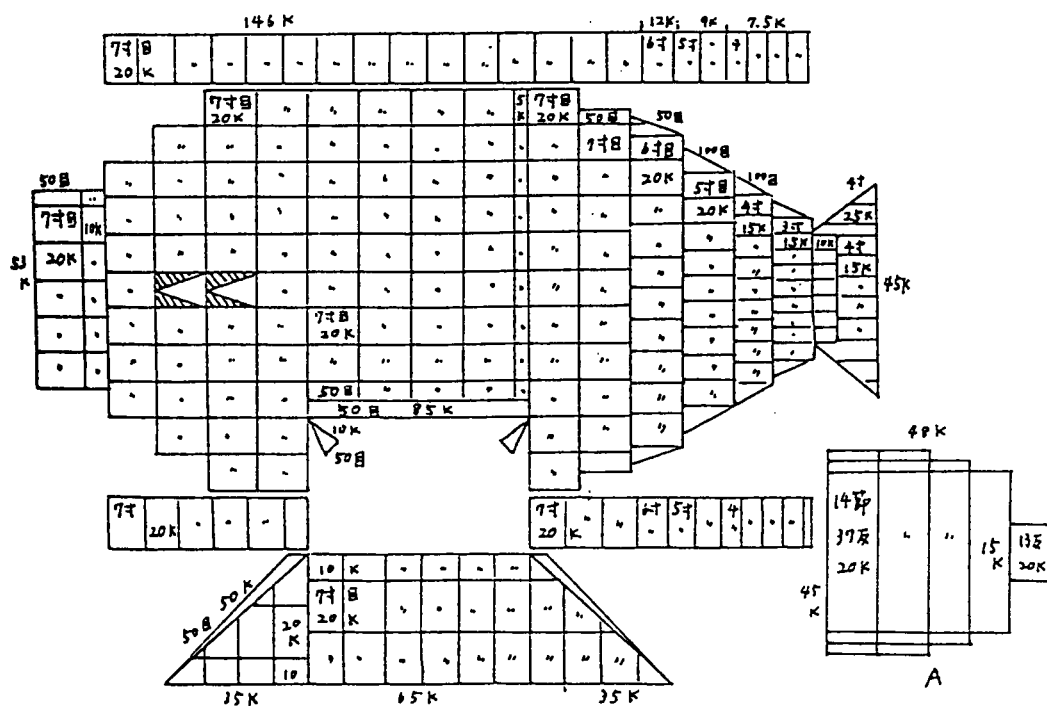
b. 鰯大敷網漁具図



記号	名 称	規 格 , 数 量	記号	名 称	規 格 , 数 量
イ	ささせ網(藁)	4 寸目 70 節 60 尋切 20 反	チ	沖 の 端 先	竹 5 間× 12 碇 20
ロ	合 目 網	3 寸目 66 節 20 尋切 22 反	リ	へたの端先	竹 5 間× 12 碇 20
ハ	三 刺 目 網	2.5 寸目 96 節 20 尋切 22 反	ヌ	引 出 網	藁製 20 尋 網口開閉用
ニ	二 刺 目 網	1.6 寸目 96 節 20 尋切 22 反	ル	沖 の 袖	藁製 垣網
ホ	十三 盛 目 網	1.2 寸目 96 節 20 尋切 22 反	オ	へたのみち網	藁製 垣網
ヘ	十二 盛 目 網	8 分目 96 節 10 尋切 10 反	ワ	碇	藁製袋に石詰め
ト	か ざ	竹 5 間× 12 碇 16	カ	浮 子	竹 5 間× 3 本

ぶり大敷網

高山村大字波見 (明治 3 5 年)



- 5 -

2. 現 況

1) 定置網設置状況

平成元年現在，定置網漁業は県内全沿海漁協（74）のうち72%にあたる53漁協管内において営まれている。

定置漁業権に基づく大型定置網は17漁協35ヶ所，共同漁業権に基づく小型定置網は53漁協390ヶ所，計425ヶ所となっている。

網の種類としては，大型定置網35統すべてが落網，小型定置網390統のうち112統が落網，278統がます網である。

定 置 網 設 置 状 況

平成元年 属地

漁 協 名	大型定置		小 型 定 置		計	漁 協 名	大型定置		小 型 定 置		計
	落網		落網	ます網			落網		落網	ます網	
東 町				78	78	鹿 児 島 市				2	2
長 島 町				14	14	東 桜 島				6	6
出 水 市			2	11	13	西 桜 島				2	2
黒 之 浜				1	1	錦 海				4	4
西 目				4	4	錦 江				6	6
川 内 市				1	1	福 山				5	5
里 村			4	5	9	牛 根				1	1
浦 内	1		2	2	5	垂 水 市				3	3
上 甕	2		5	2	9	鹿 屋 市				5	5
平 良	2		4	2	8	大 根 占 町				2	2
鹿 島	6		2	4	12	根 占 町			4	9	13
長 浜	2		4	2	8	佐 多	1		5	1	7
青 瀬	1		1	6	8	佐 多 岬			16		16
西 海	2			9	11	船 間	2		3	1	6
手 打	2			4	6	岸 良			3		3
羽 島			3		3	内 之 浦 町	6		8	13	27
笠 沙 町	1		2	11	14	高 山 町	2		4	13	19
野 間 池			6		6	志 布 志				4	4
秋 目	2			7	9	西 之 表 市			2		2
久 志	1		1	2	4	中 種 子 町			3		3
坊 泊				3	3	南 種 子 町			3		3
枕 崎 市			1		1	上 屋 久 町	1		2		3
かいえい	1		11	3	15	屋 久 町			3		3
山 川 町			2		2	名 瀬			1		1
指 宿 市			5	2	7	瀬 戸 内				2	2
喜 入 町				9	9	喜 界 島				1	1
谷 山				16	16	計 (53)	35		112	278	425

2) 経営形態

定置網425統のうち個人経営のものが83%にあたる353統，共同経営が7.5%の22統，会社（株式・有限）経営が4%の17統，漁協自営が3%の13統，生産組合が25%の10統となっている。

小型定置網のます網においてはほとんど個人経営であるが，網の規模が大きくなるにつれ法人組織による経営が増え，大型定置網においては漁協，生産組合，会社等法人組織によるものが60%，共同・個人によるものが40%となっている。

経営形態状況

平成元年現在

経営形態	大型定置	小型定置		計
		落網	ます網	
漁協	9	4	0	13
生産組合	5	4	1	10
会社	7	9	1	17
共同	8	23	1	32
個人	6	72	275	353
計	35	112	278	425

3) 操業時期

落網では漁獲対象魚種がブリから他の魚種へ変化したものが多くなってきたため，冬期主体から周年操業へ変ってきた。

落網147統のうち，周年操業するものは57%の84統，夏期主体のもの11%16統，冬期主体のもの32%47統となっている。

ます網は278統のうち82%の227統が周年操業となっている。

これらの操業時期は対象漁獲物の違いによるもののほか，台風，冬の季節風等天候のそれぞれの漁場に与える影響により決定されている。

操業時期

漁場数

種類 \ 操業時期		周 年	春期～秋期	秋期～春期	計
大型定置（落網）		1 8	2	1 5	3 5
小型定置	落 網	6 6	1 4	3 2	1 1 2
	ます網	2 2 7	1 9	3 2	2 7 8
計		3 1 1	3 5	7 9	4 2 5

4) 大型定置漁場

現在敷設されている定置漁業権に基づく大型定置の漁場は古くから網代（あじろ）として知られているものがほとんどであり、それぞれ古い歴史を持っている。

現在35漁場（免許数36）が免許されている。

※瀬尾漁場は冬網・夏網漁場の2免許

網の種類はすべて落網であり、35統のうち70%の24統が二段落の網となっている。

大 型 定 置 漁 場

平成元年現在

漁協名	漁場名	経営形態	番号	備 考	漁協名	漁場名	経営形態	番号	備 考
浦 内	一本松	個 人	1	一段落	久 志	網 代	個 人	23	二段落
上 甕	茅牟田	会 社	2	二段落	かいいい	小 瀬	漁 協	24	二段落
〃	黒 瀬	会 社	3	二段落	佐 多	高 瀬	漁 協	25	二段落
平 良	深 浦	漁 協	4	一段落	船 間	深 井	共 同	26	二段落
〃	弁 慶	漁 協	5	一段落	〃	涼 松	共 同	27	二段落
鹿 島	夜 萩	共 同	6	一段落	内之浦町	桃ノ木	生産組合	28	二段落
〃	浮 水	個 人	7	一段落	〃	津 代 (小谷)	個 人	29	二段落
〃	鷹 落	個 人	8	一段落	〃	倉ノ下 (双子瀬)	漁 協	30	二段落
〃	中 山	個 人	9	一段落	〃	仏 崎	共 同	31	二段落
〃	吹 切	共 同	10	二段落	〃	浜之田	共 同	32	二段落
〃	由良島	共 同	11	一段落	〃	海 蔵	共 同	33	二段落
長 浜	小 田	生産組合	12	二段落	高 山	飯ヶ谷	漁 協	34	二段落
〃	汐 床	会 社	13	二段落	〃	東風泊	漁 協	35	二段落
青 瀬	瀬 尾	生産組合	14.15	二段落	上屋久町	矢 筈	漁 協	36	一段落
手 打	佐の浦	会 社	16	二段落				熊定1	
〃	鋏の柄	会 社	17	二段落	計	35		36	
西 海	貝 水	生産組合	18	一段落	*番号は資料漁場位置図の番号 並びに免許番号				
〃	鈴	生産組合	19	一段落					
笠沙町	高 崎	漁 協	20	二段落					
秋 目	高 根	会 社	21	二段落					
〃	赤野間 (関加の間)	会 社	22	二段落					

5) 漁具・漁法

a. 大型定置網(1)

1. 調査場所 高山町漁業協同組合 飯ヶ谷漁場
2. 操業形態 漁協自営
3. 設置期間 周年
4. 水深 42 m (身網最深部)
5. 網の種類 落網 二段落

1) 側張りの構成

部 位	材 料 ・ 規 格	数 量
側 網	ワイヤー 24 ㇰ, 22 ㇰ	
運動場・昇り 取付けロープ	D.L (ダンライン) ロープ 36 ㇰ	
碇 ロープ	H.Z (ハイゼックス) ロープ 36 ㇰ	100 m / 1ヶ所
碇	コンクリート方塊 25 t サンドバッグ 100~200個 / 碇ロープ1本	10個 約1万2千個
台	360 ㇰポリ浮子	50個 / 1ヶ所
側 浮 子	360 ㇰポリ浮子	1個 / 1Kごと

2) 網の構成

部 位	主 な 材 料 ・ 規 格	目 合
垣 網	T.D (テトロン・クレハロン混紡) 120~300本	360 mm
運 動 場	T.D 100~250本	180 mm
一 段 箱	T.D 100~120本 M.F 90本	120 mm
二 段 箱	T.ラ (テトロンラッセル) 30~36本 S.ラ (スーパーラッセル) 30本	12 節 (替網は16節)
魚 取 り 部	T.ラ 36本	16 節

6. 使用船 本船 (網船) 1隻 19 t 全長 24 m 160 馬力
伝馬船 2隻 2~3 t

7. 付 属 機 器

名 称	数 量	備 考
油圧クレーン	1	3 t 巻
網処理機	1	3 t 巻
サイドウインチ	1	5 t 巻
キャプスタン	6	3 t 巻 4 5 t 巻 2
デレッキ	2	
三方ローラー	1	

8. 主な漁獲物 アジ，トラフグ，カマス，サゴシ，イワシ，ミズイカ
9. 水 揚 状 況 約 1 4 0 t 5,000 万円（62 年）
10. 従 事 人 員 38 名
11. 配当の方法 水揚 — 大仲経費の残りの
 60%従業員（船頭 1.6 副船頭 1.5 側船頭 1.4 人前）
 40%漁協

12. 操業の方法

朝 6 時ごろ 4～5 名を陸の網修理人員として残し，伝馬船 2 隻に 8 名，残りは本船に乗り込み漁場に向かう。漁場到着後，伝馬船 2 隻は側船頭の指揮により網・側の点検を行う。本船は普通二段箱より箱網に取付けられた環締めロープを船のキャプスタン（たてローラー）6 個にて巻きとり，船頭の指揮により網揚げを開始する。網揚げの終わりごろには伝馬も点検を終了し，網揚げを手伝う。漁獲物が多い場合はデレッキを使用して取り上げる。水揚げは普通，漁協の市場において入札にかける。

網替えはブロックごとに 20～40 日毎に行い，船への上げ下しは，油圧クレーンに取付けた網処理機および船首の三方ローラーを使用する。

（所要時間 約 1 時間）普通すべての作業は昼までに終了する。

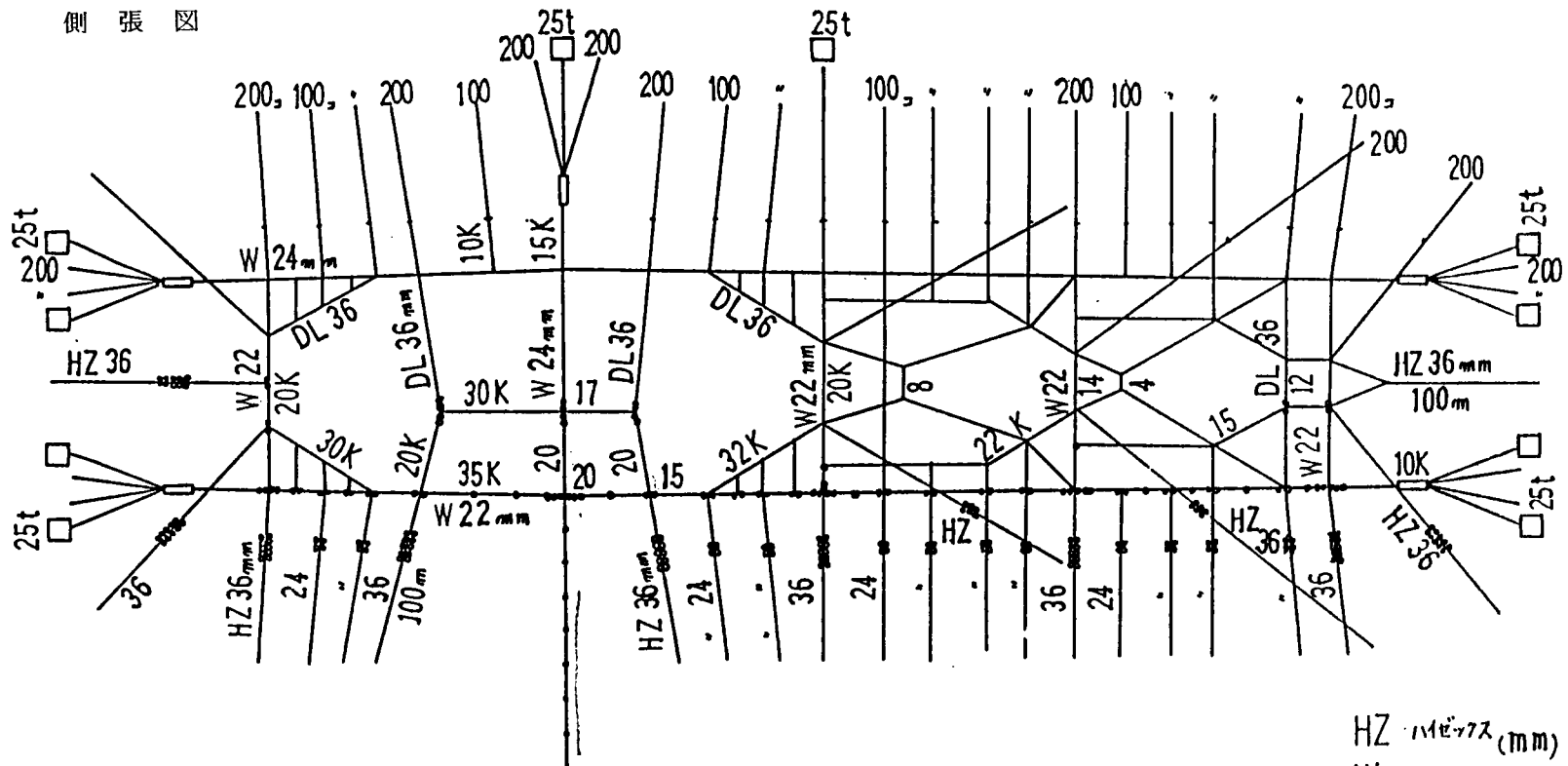
13. そ の 他

高山町漁協にはもう 1 統の自営漁場（東風泊漁場）があり，従業員は両漁場の操業を行う。

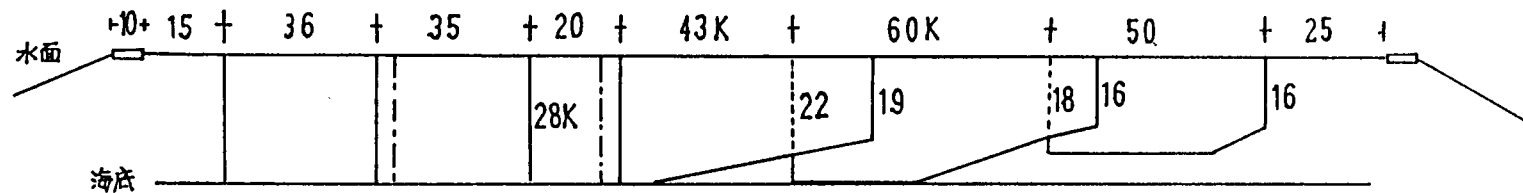
調査漁場は 63 年度新しく網を改良し設置した。（62 年水揚げは従来網分） 本船・機器 約 4,800 万円，側張り 2,700 万円，網（替網含）1 億 3,000 万円

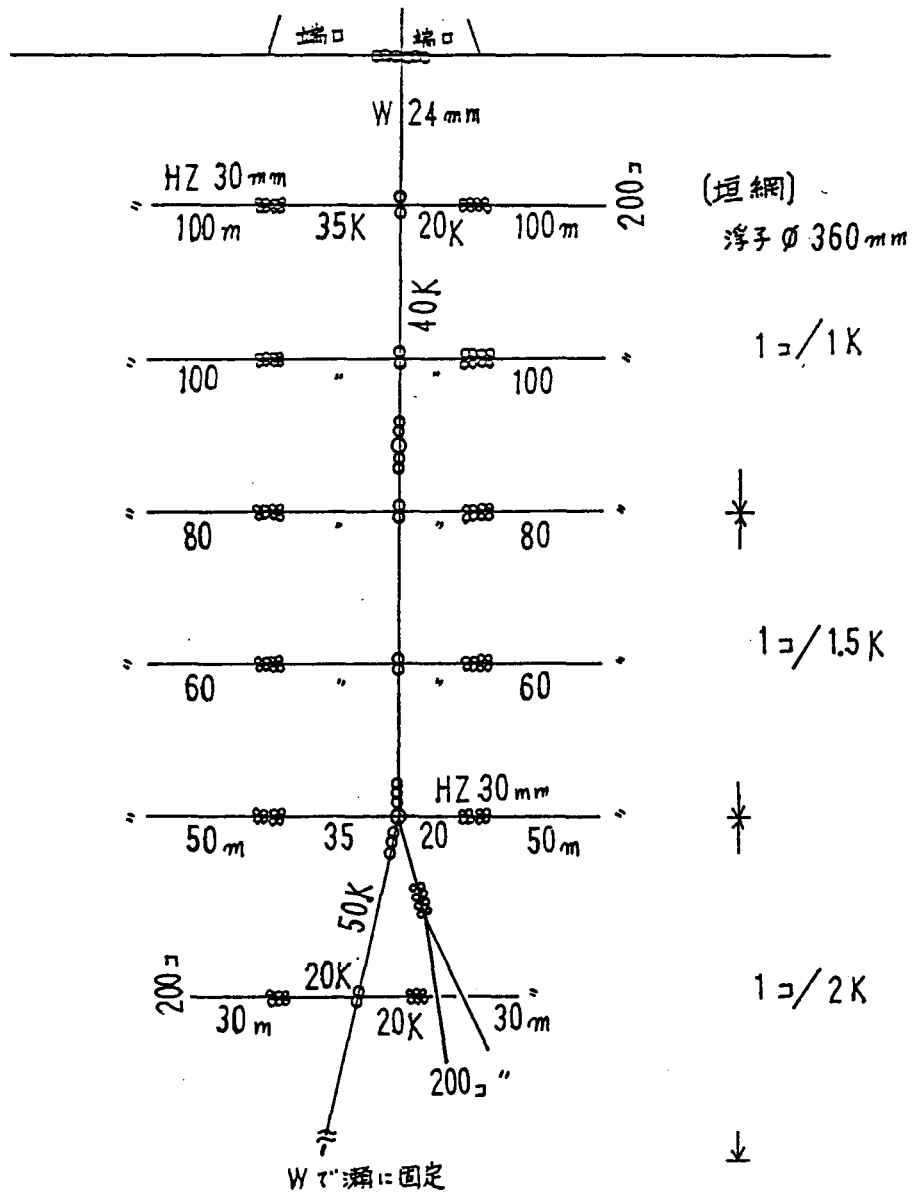
側張図

- 11 -

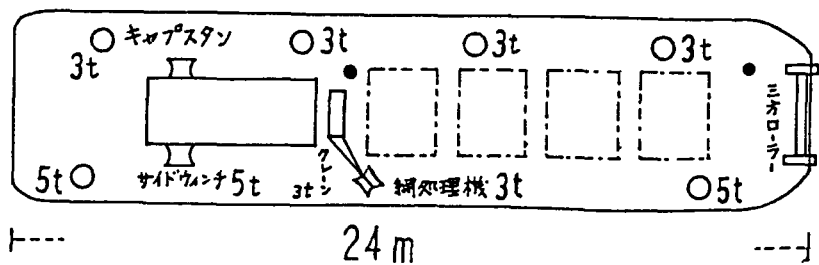


HZ ハビタス (mm)
W ワイヤー
DL ダンク

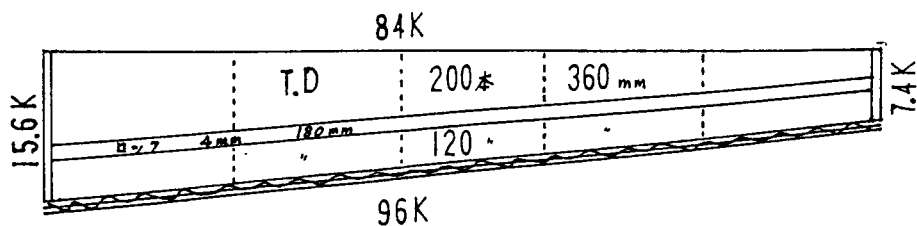
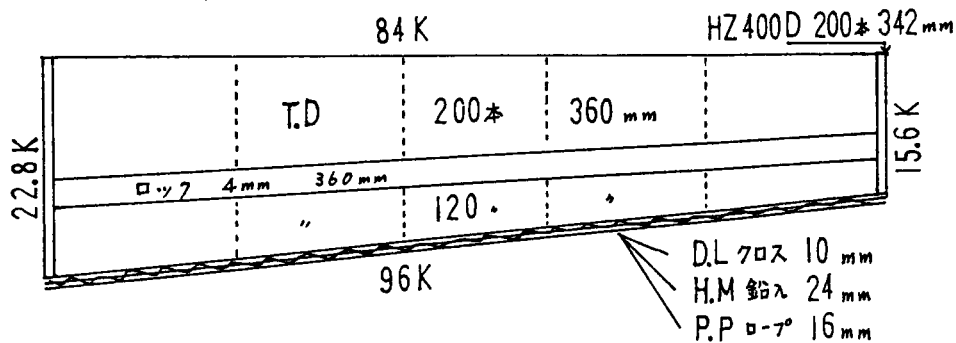
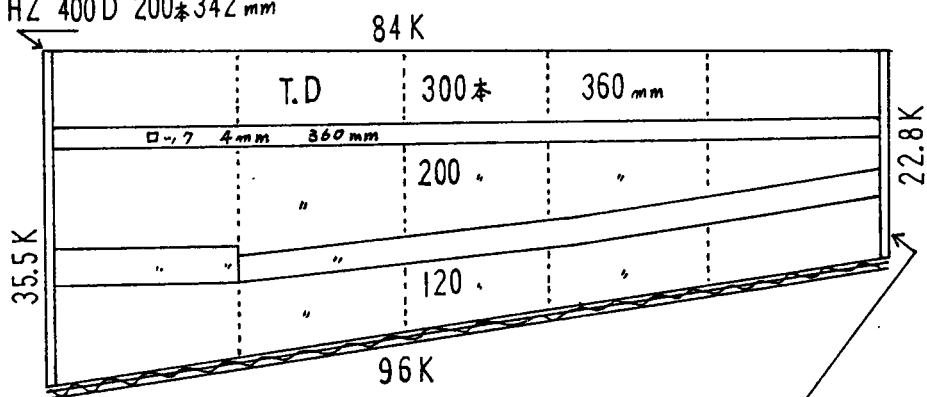
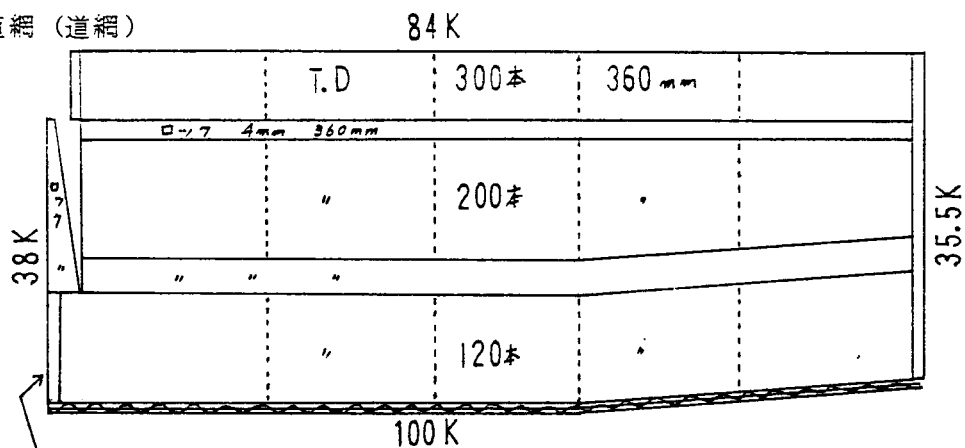




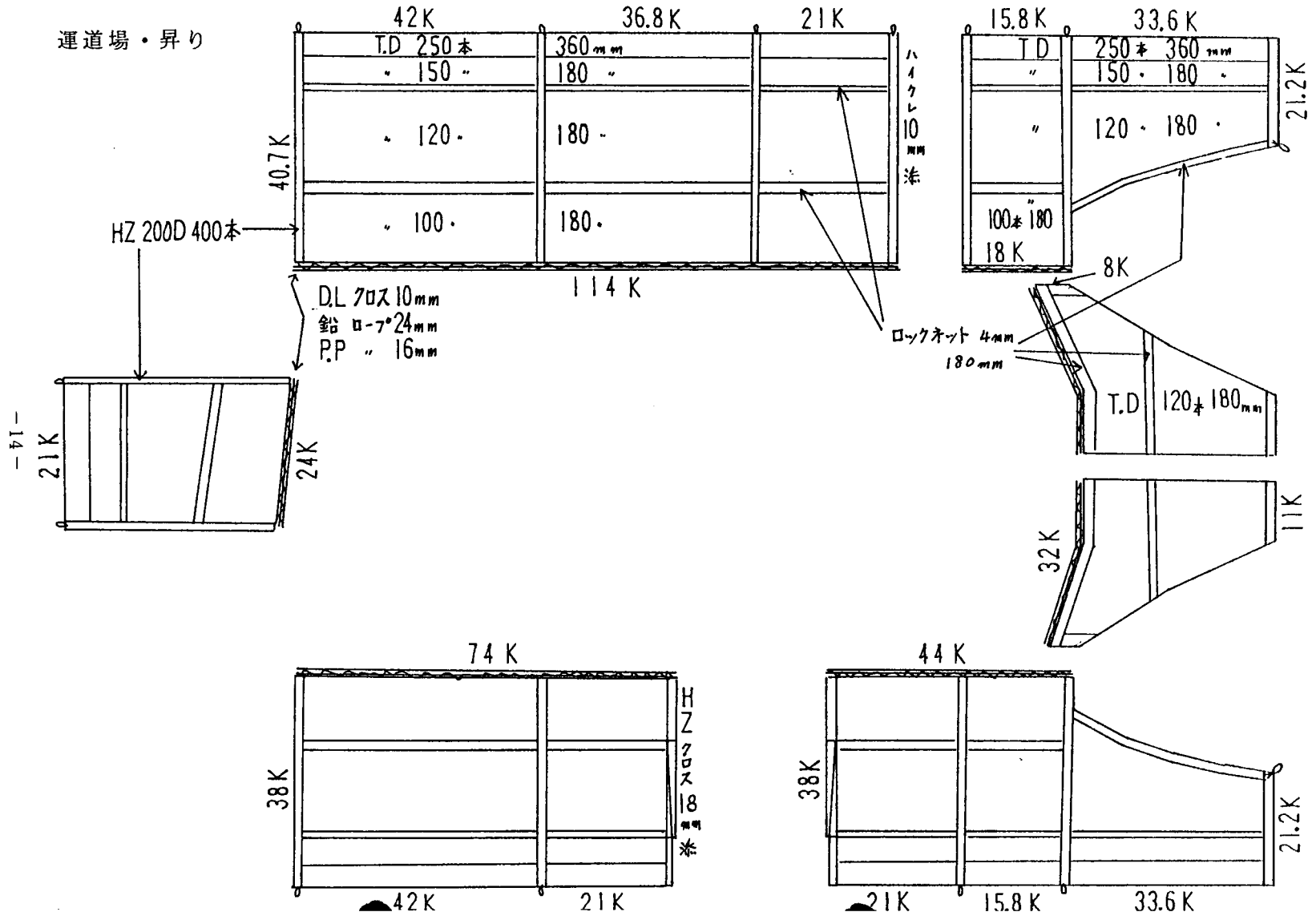
本船（網持船）

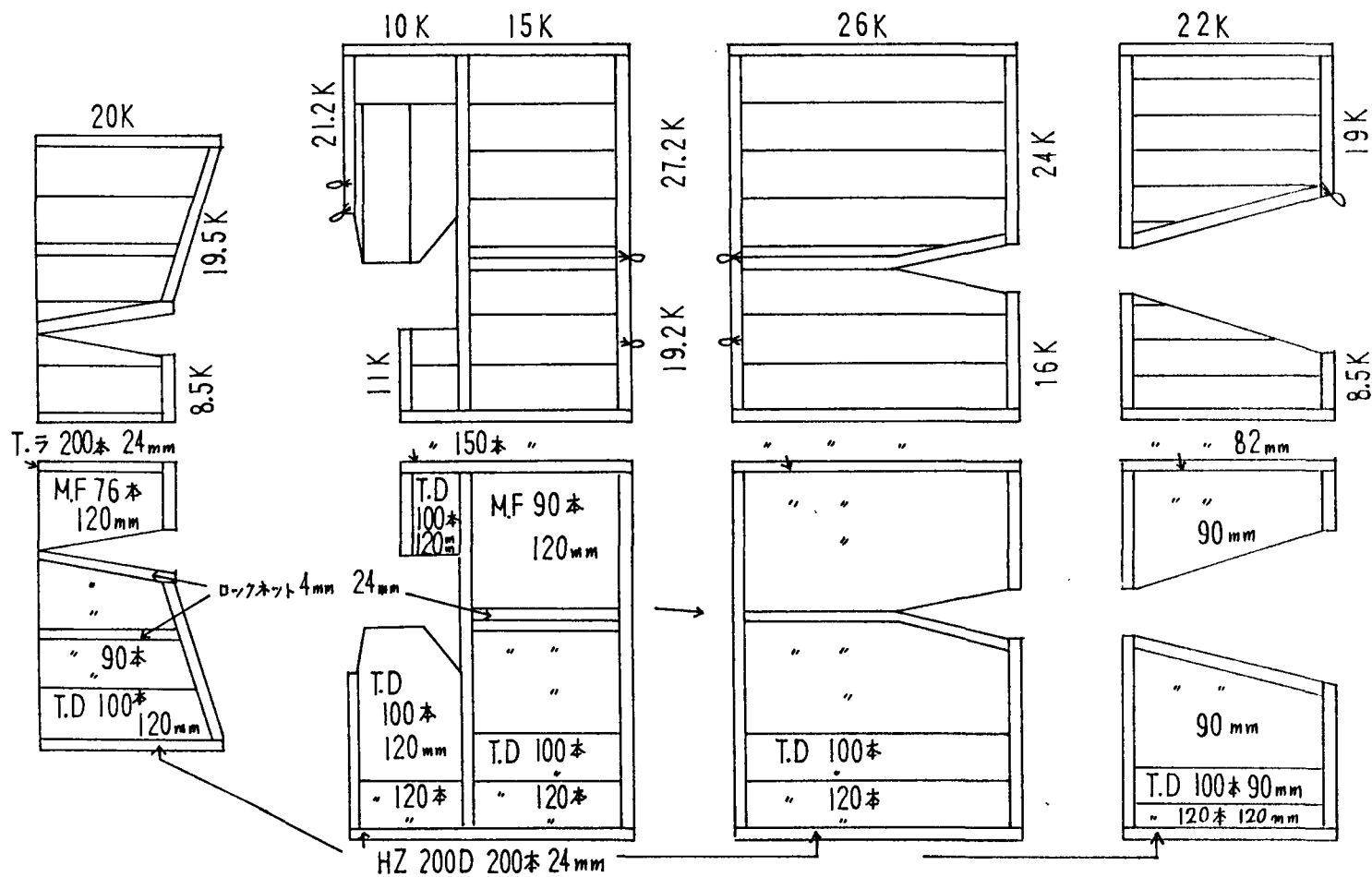


桁番 (階層)

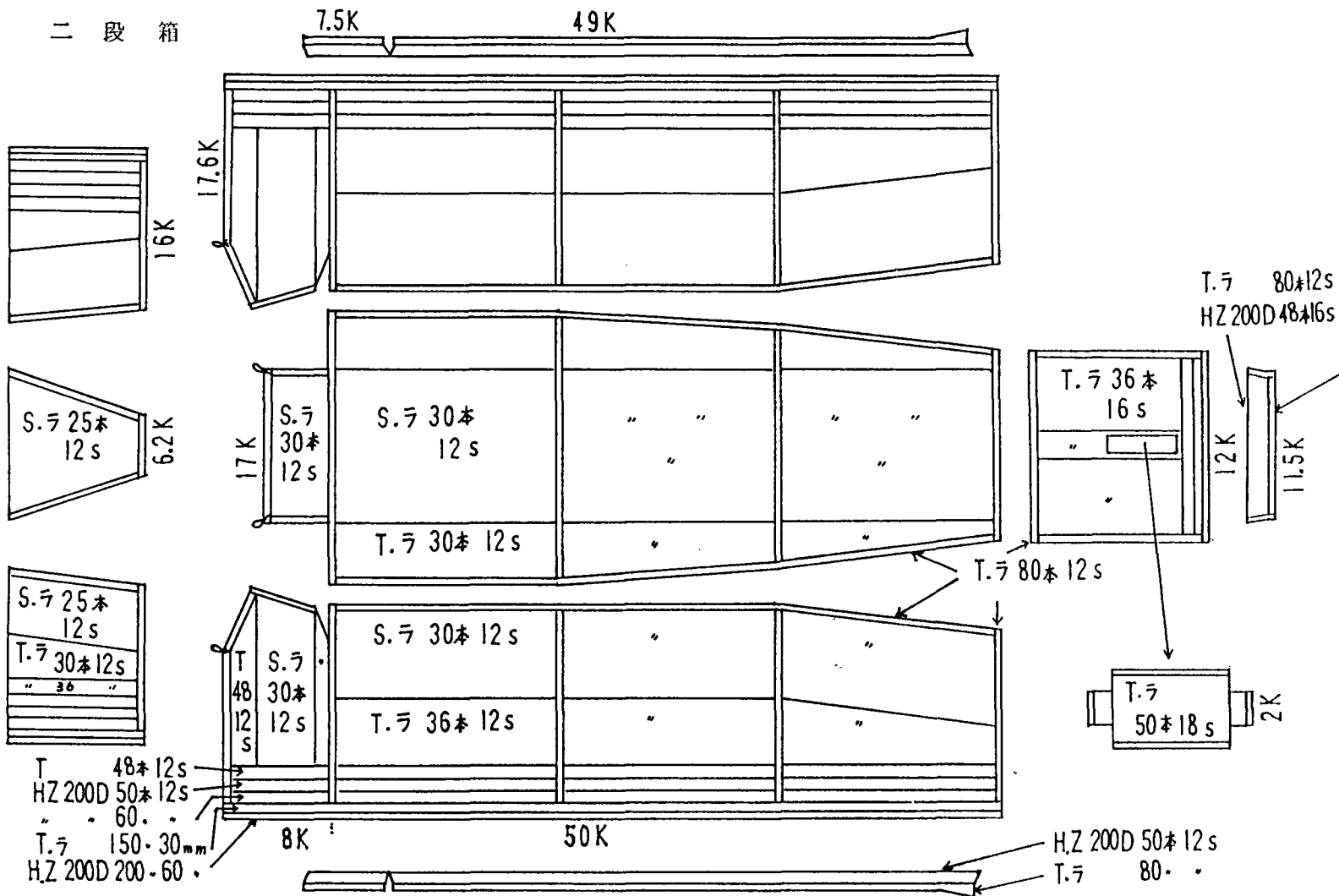


運道場・昇り

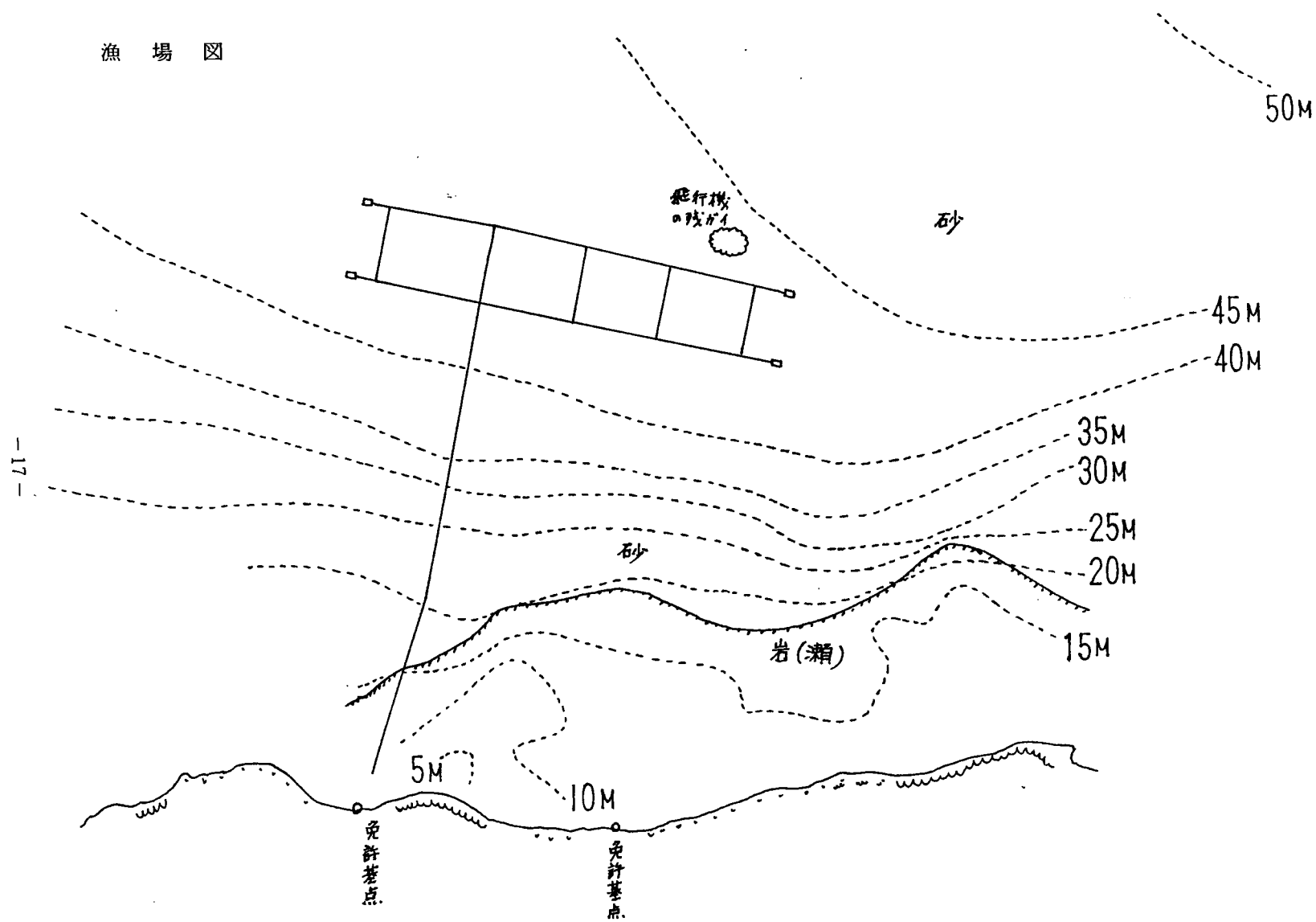




二 段 箱



漁場図



a. 大型定置網(2)

- 1 調査場所 鹿島村漁業協同組合 吹切漁場
- 2 操業形態 共同経営
- 3 設置期間 11月～6月
- 4 水深 48m(身網最深部)
- 5 網の種類 落網 二段落

1) 側張りの構成

部 位	材 料 ・ 規 格	数 量
側 網	ビニール被覆ポリロープ 30.3%	
運 場 場 昇り取付けロープ	〃	
碇 ロ ー プ (台碇ロープ)	ポリロープ 24～27% (ポリロープ 30.3%)	(4箇所×4本)
碇	サンドバッグ 台碇：サンドバッグ 100個/碇ロープ 側碇：サンドバッグ 80個/碇ロープ	全体使用 サンドバッグ 約6,000個
台	360%ポリ浮子 30個	4箇所
側 浮 子	360%ポリ浮子 2～4個/箇所	5～6K間隔

2) 網の構成

部 位	材 料 ・ 規 格	目 合
垣 網	パイレン結節網 60本	150mm(5寸目)
運 動 場	〃	〃
一 段 箱	〃	90mm(3寸目)
二 段 箱	〃 30本 (落しから魚取り部に近づくにつ れ目合が小さくなる。)	60mm(2寸目) ～10節～12節
魚 取 り 部	側網：パイレン 30本 底網：サラン 30本	10節

6. 使用 船

- 1) 網 持 船 (3 隻) 1 0 3 0 トン 4 0 P.S
 3.1 トン 7 0 P.S
 2.6 トン 3 5 P.S 他伝馬船 1 隻
- 2) 出荷運搬船 (1 隻) 9.4 3 トン 6 0 P.S
- 3) 段平船 (木造無動力船, 網替時使用)
 5.8 5 トン
 4.5 3 トン

7. 付 属 機 器

設 置 漁 船	機 器 名 称	数 量	備 考
1 0 3 0 トン 4 0 P.S	デ レ ッ キ	1	
	網 処 理 機	1	1 トン巻
	V ロ ー ラ ー	1	1 5 0 型
	キャッチホーラー	1	
	キャプスタン	2	1 トン巻
3.1 トン 7 0 P.S	キャプスタン	2	
2.6 トン 3 5 P.S	サイドローラー	2	
	潜水用コンプレッサー	1	

8. 主な漁獲物 イワシ, サバ, アジ, ヤリイカ, ネリゴ, ヤセブリ,
 イシダイ, 水イカ
9. 水 揚 状 況 4.0 0 0 万円 (6 3 年度)
10. 従 事 人 員 1 6 人
11. 配 当 方 法 1 0 月 ~ 6 月 の 期 間 日 給 月 給 (他の月失業保険)
 日 給 4.5 0 0 円 × 月 の 日 数
 (船頭の日給 1.5 人前, 水揚責任者 1.1 人前, 機関長 1.1
 人前)

他に、航海手当（串木野，牛深等へ） 3,000 円／回
潜水手当（作業内容により）

4,000～10,000 円／回

運転手当 3,000 円／月

機関手当 15,000 円／月

皆勤手当 3,000 円／月

12. 操業の方法

朝 6 時（冬場 6 時 20 分）ごろ本船に 8 人，側船 2 隻に 4 人ずつ乗り込み，漁場へ向う。漁場到着後本船の 1 人は伝馬船で，側・網の点検を行う。本船のキャプスタンで環締めロープを巻きとりつつ，本船のキャッチホーラーと，側船で網揚げを行う。

朝 8 時ごろには，帰港し，鹿島港発午前 9 時のフェリーにまにあよう，箱詰め作業を行う。

100 箱程度までの水揚げの時は，フェリーで運搬するが，水揚げが多い時（150～200 箱程度）は自己船で，串木野港まで運搬する。

又，活魚（瀬物，ブリ，ネリゴ）は自己船で牛深へ運び，熊本の市場等へ出荷する。

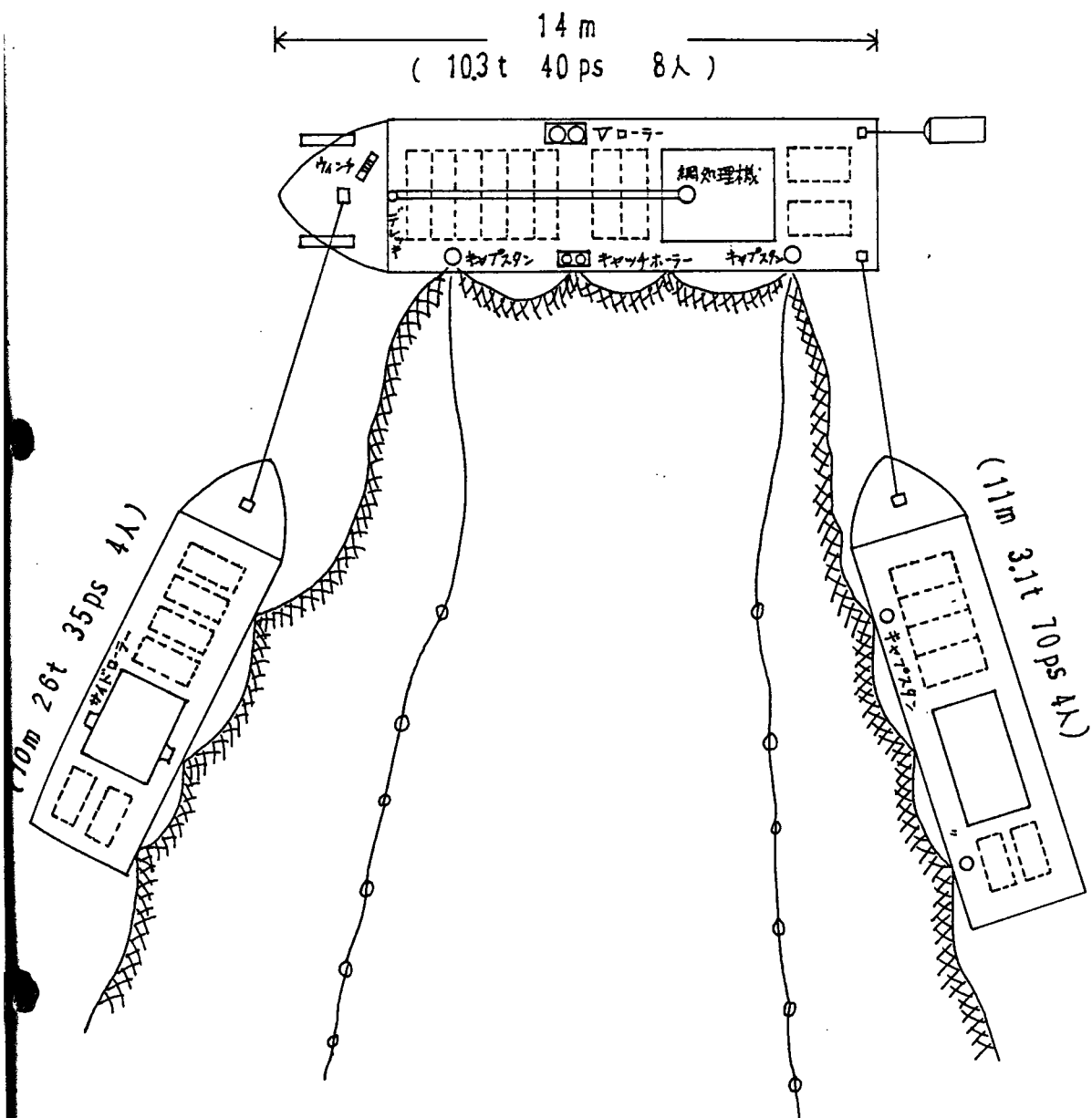
網替えは，ブロック毎に 40 日～60 日ごとに行う（所要時間約 6 時間）。替網は 1 統。本型式の定置網は 53 年より敷入し，58 年に改良をくわえて現在の型となっている。

13. そ の 他

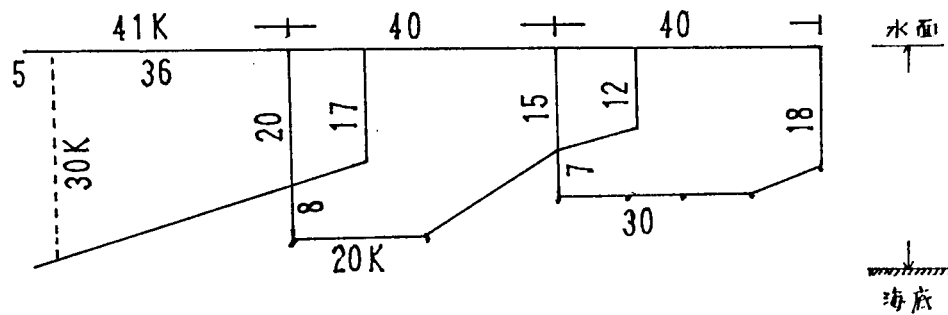
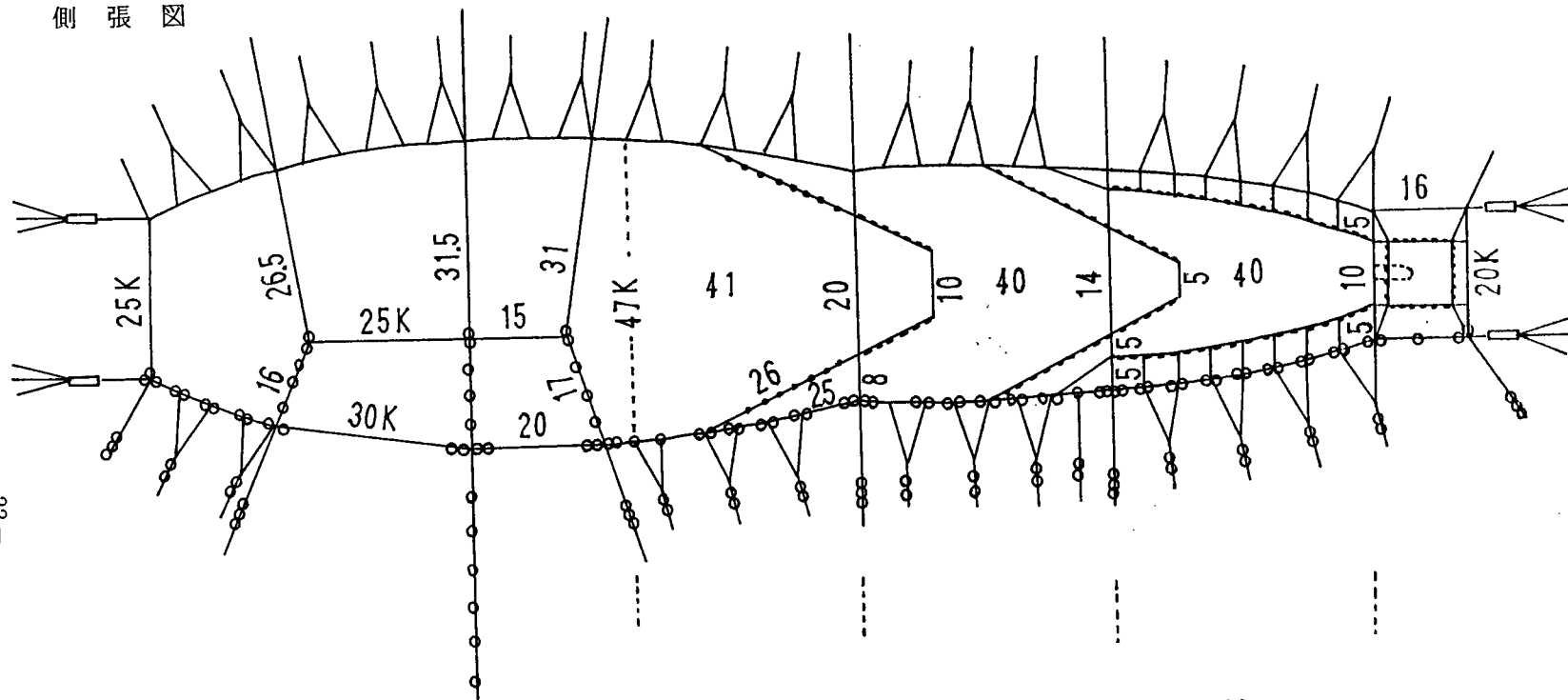
本経営体には，もう一統の大型定置網（由良島漁場）があり，従業員は両漁場の操業を毎日行う。

由良島漁場の設置期間は 10 月～7 月中旬，水揚げ高は年間約 2,000 万円。

(網揚状況及び機器配置図)



側張図



b. 小型定置網 (1)

1. 調査場所 かりゑい漁業協同組合 知覧町松ヶ浦漁場
2. 操業形態 個人経営
3. 設置期間 局 年
4. 水 深 26 m (身網最深部)
5. 網の種類 落網 二段落

1) 側張りの構成

部 位	材 料 ・ 規 格	数 ・ 量
側 網	本側, ダイアライン被覆巻 40%	
	胴張 " 30%	
碇 ロ ー プ	P (ポリロープ) 22, 24, 26%	
碇	サンドバッグ50~100 個/碇ロープ1本	約8,000 個
台 浮 子	360% ポリ浮子	40 個 / 1ヶ所
側 浮 子	360% ポリ浮子	2 個 / 5 Kごと

2) 網の構成

部 位	材 料 ・ 規 格	目 合
垣 網	T (テトロン) 170本 (上部4K)	240 mm
	PP (ポリプロピレン) 150本	240 mm
運 動 場	T 90本 (上部50目)	150 mm
	PP 60, 75本 昇り部角目	150 mm
一 段 箱	T 60本	5 節 ~ 6 節
二 段 箱	PP 120本 (上部7.5目)	6 節
	PP 45~60本	6 節 ~ 12 節
	T 45本	6 節 ~ 12 節
(魚取り部)	T 45本	14 節

6. 使用船 FRP船 3隻
- ・本船 4.8 t, 50馬力, 全長13 m
 - ・伝馬船 1.9 t, 25馬力(船外機)
 - ・網替え時 0.9 t, 15馬力(船外機)も使用。

7. 付属機器

名 称	数 量	備 考
魚 探	1	4.5 m K 3.5 型(2), S 3 型(1) 1.4 t 巻 } 本 船
サイドローラー(油圧)	1	
コーンローラー(〃)	3	
キャプスタン(〃)	2	
デレッキ	1	
サイドウインチ	1	
テレサンダー	1	
ローラー	1	24 V: 伝馬船

8. 主な漁獲物 イワシ, アジ, サバ, トビウオ, 水イカ
9. 水揚状況 約320 t, 2,900万円(S63年)
10. 従事人員 7名(本人含)
11. 配当法

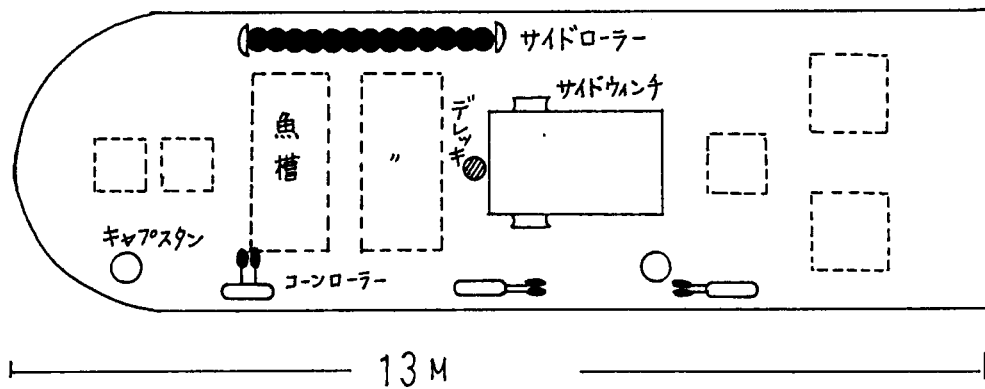
最低保障として常雇15万円, 網持7万円とするが, 総水揚より総経費を差引いた額を船主6, 従業員4の割合で計算した額と最低保障額とを比較して, いずれか高い方を月給として払う。

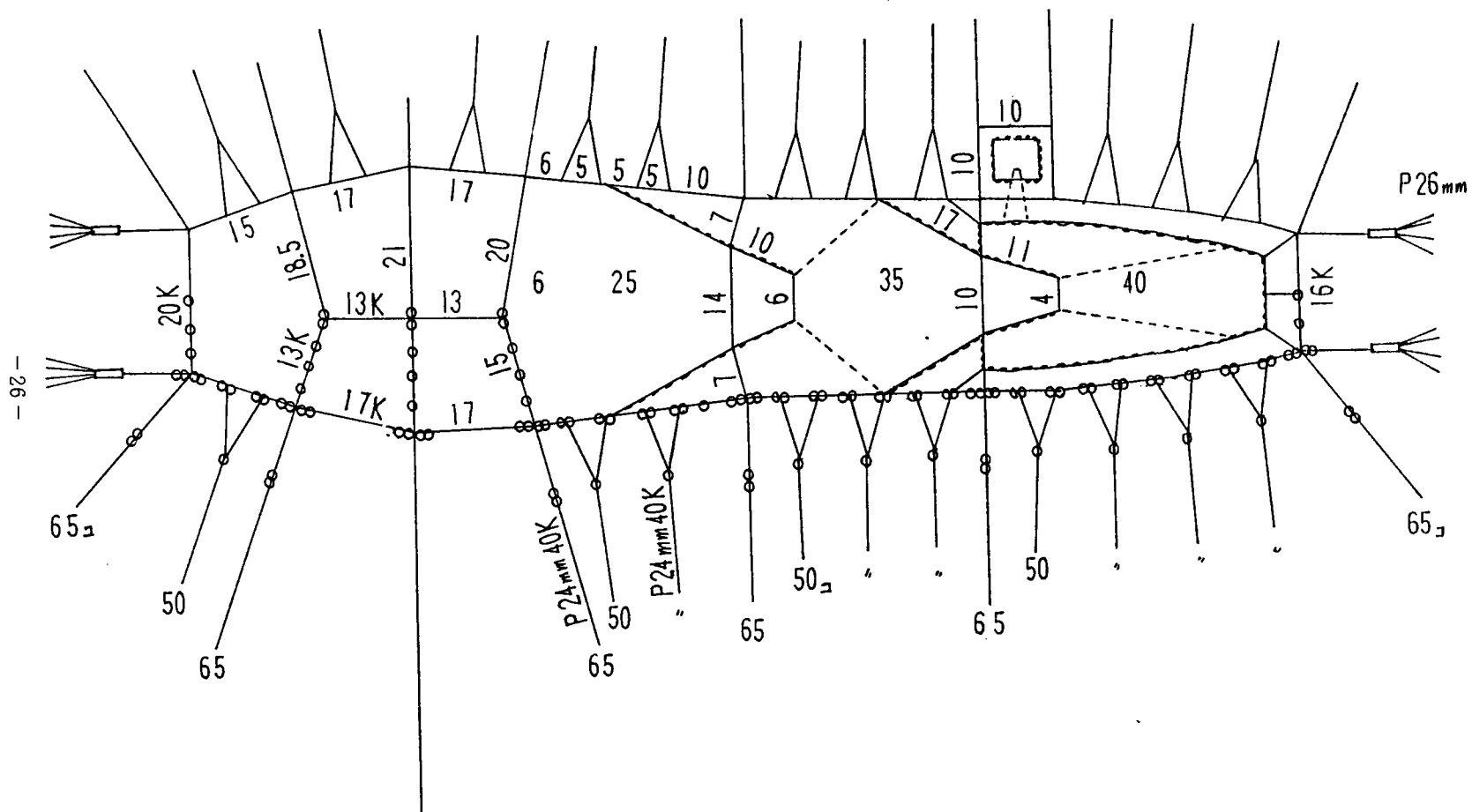
12. 操業の方法

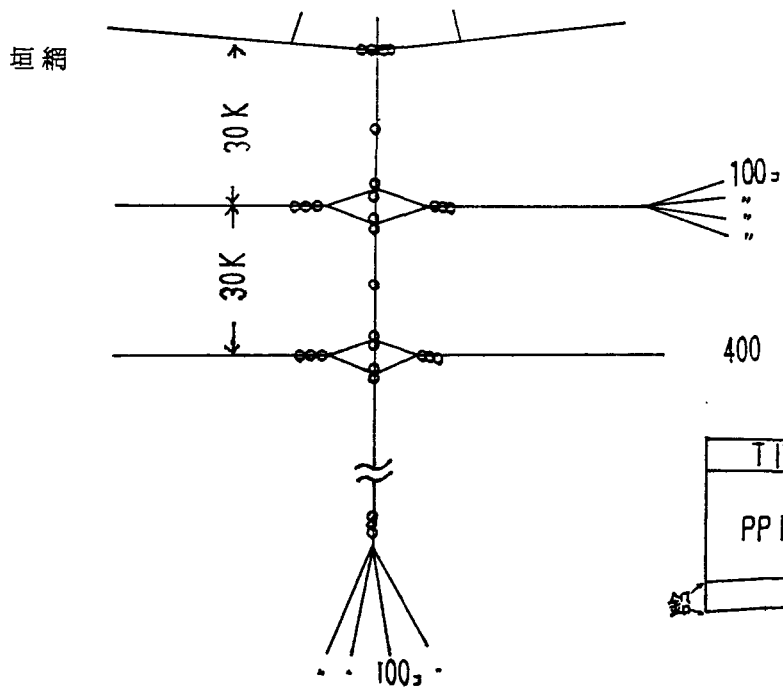
朝5時に出港。本船に5名, 伝馬船に2名乗船し漁場へ向う。到着後, 伝馬船は底張をゆるめ, 本船に移り, 網揚げを行う。本船は二段箱だけを網揚げする。キャプスタンでひこ綱を巻き上げ, のちにコーンローラー3機, キャプスタン2機で網揚げをする。終了後, 伝馬船が底張を締めつけ(底張のゆるめと締めつけには24Vのローラーを使用), 作業は終了する。漁獲物が多い場合はデレッキを使用して取り揚げる。漁獲物は市場へ陸送する。

網替えは月に1度全部入れ替える。サイドローラー，コーンローラーを使用して行う。揚げるのに1日，入れるのに1日，計2日を要する。

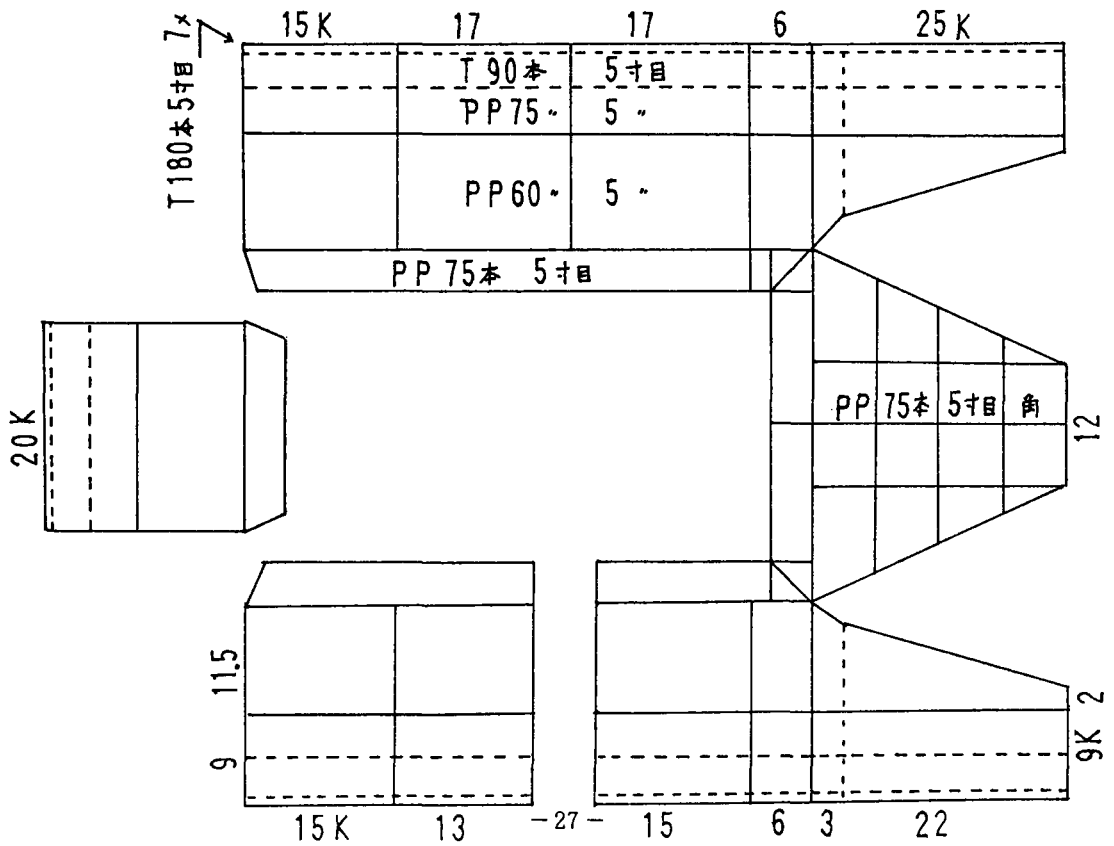
本船（網持船）



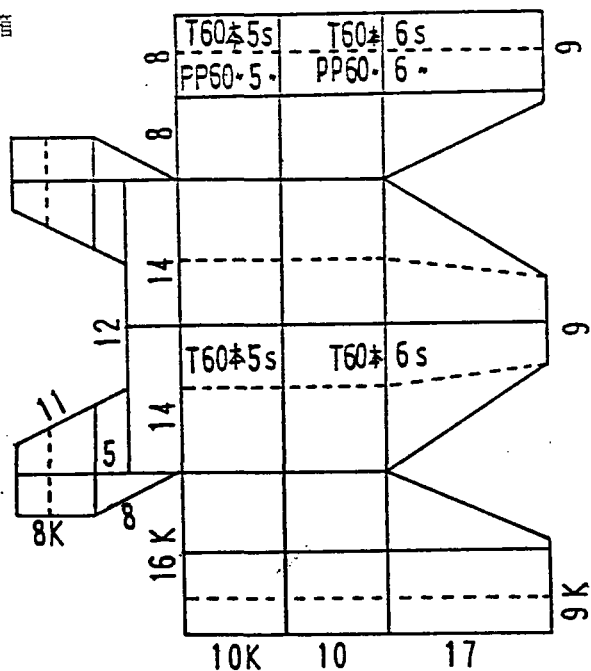




運道場・昇り

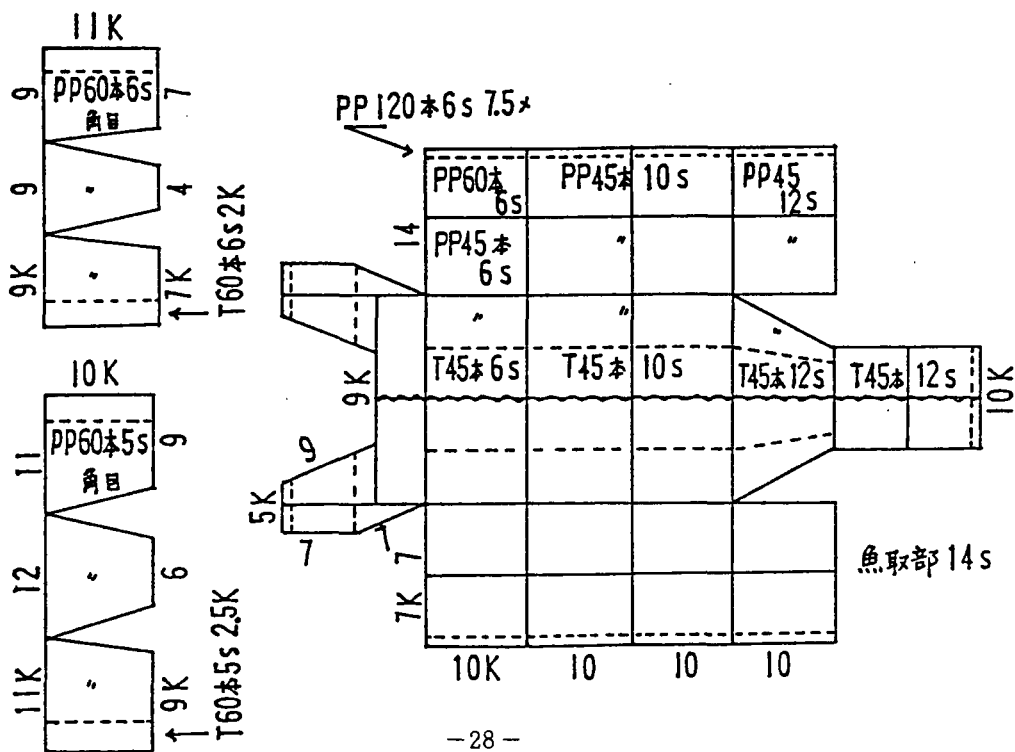


一段箱



S = 節

二段箱



b. 小型定置網(2)

1. 調査場所 佐多岬漁業協同組合 荒崎漁場
2. 操業形態 共同経営
3. 設置期間 台風期間を除く周年(約10ヶ月間)
4. 水深 25m(身網最深部)
5. 網の種類 落網 一段落

1) 側張りの構成

部 位		材 料 ・ 規 格	数 量
運動場, 昇り取付 ロープ, 箱網ロープ		ダンラインロープ 36%	
金庫取付ロープ		ダンラインロープ 36%	
碇ロープ	台(4ヶ所)	ポリロープ 26%	100m×14本
	平又及び1本	ポリロープ 24%	100m×41本
碇 (台)		サンドバッグ 200個	200個×14ヶ所
碇 (平又及び1本)		サンドバッグ 100個	100個×41ヶ所
碇 (底張り用)		サンドバッグ 100個	100個×32ヶ所
浮 子		サイコラックフロート (CT361%)	(台) 30個×4ヶ所
			(平又, 1本) 2個×41ヶ所
側 浮 子		ポリフロート (CT361%)	網 2個/5Kごと
			垣網部 1個/5Kごと

2) 網の構成

部 位	主 な 材 料 ・ 規 格	目 合
垣 網	P.P (ポリプロピレン) 60本	150mm
運 動 場 (昇 り 部)	P.P 60本	150mm
	P.P 75本	150mm 角目
箱 網 部 (魚 取 り 部)	P.P 45本	6 節
	テトロン 60本 (底部)	10 節
	P.P 30本	12 節
	テトロン 45本 (底部)	14 節 (底部)
金 庫 部	P.P 45本 テトロン 45本 (底部)	10 節

6. 使用船 本船（網船）1隻6 t，全長15 m，20馬力
伝馬船 2隻 船外機0.7 t

7. 付属機器

名 称	数 量	備 考
コーンローラー	2	本 船
両サイドウィンチ	1	本 船

8. 主な漁獲物 ブリ，ヒラマサ，イワシ，クロ，水イカ，
タイ餌用仔イカ，インダイ等
9. 水揚状況 11 t，約1,000万円
10. 従事人員 5名
11. 配当の方法

水揚から大仲経費を引いた残りから，株主以外の従事者（2名）に給料（定額）を支払う。残りを株主（3名）で分配する。

12. 操業の方法

潮の流れの方向や潮止まりを見はからって網揚げをする。

伝馬船に2名乗り，金庫の底張りロープをゆるめたのち，本船でコーンローラーを使用しながら5名で金庫を揚げる。魚を取る時は，対面になるように両船が網をはさんで並ぶ。魚を取り終わったら，伝馬船は天井をしめ，本船は底張りをしめる。

次に，伝馬船は，本網の底張りをゆるめる。それが終わると，本船が網の中に入る。伝馬船に乗っていた人も本船に移り，コーンローラー，サイドウィンチを使用しながら網持ちを始める。魚取り部まで行ったら伝馬船は，本船と対面するようにして，魚を取り易くする。

魚を取り終わったら，本船は底張りをしめて，網揚げは終り，本船を伝馬船で網の外に引き出す。

13. そ の 他

水揚は，普通，漁協を通じて鹿屋市場へ。多量のときは，鹿児島市場に出す。

この小型定置網は，昭和63年7月までは，二段落方式であったが，下部に瀬があり，潮の流れが早いために，63年11月より潮の流れの遅いところに少し移動し，2段箱を1段箱に改良した。

側張図



○ --- 底張り用 サンドバック* (100g)
の位置

c. 小型定置網(1)

1. 調査場所 出水市漁業協同組合 櫓木漁場^{ろぎ}
2. 操業形態 個人
3. 設置期間 周年
4. 水深 13 m (最深部)
5. 網の種類 ます網(つば網)

1) 側張りの構成

部 位	材 料 ・ 規 格	数 量
側 網	ポリエチレン 18 %	
碇 ロ ー プ	ポリエチレン 16 %, 18 %	
碇	鉄製 50 Kg, 60 Kg, 80 Kg	15
浮 子	ポリ浮子 300 %, 360 %	24, 9

2) 網の構成

部 位	主 な 材 料 ・ 規 格	目 合
垣 網	PP (ポリプロピレン) 30本	5 寸
運 道 場	〃 18本	5 節
ジョウゴ (返ラズ網)	〃 18本	6 節
箱 網	〃 18本	6 節
魚取り部(ふくろ網)	かえし網 (ジョウゴ 2ヶ所 / 1ふくろ網) 〃 18本	7.5 節
3ヶ所	魚取り部 〃 18本	12 節

6. 使用船 FRP船2隻 1.35 t, 8.25 m, 20馬力
0.95 t, 7.7 m, 〃

7. 付 属 機 器

名 称	数 量	備 考
サイドローラー	1	2 t 巻
散 水 器	1	

8. 主な漁獲物 スズキ, ミズイカ, メジナ, アイゴ, ボラ

9. 水 揚 状 況 4.5 t 約200万円

10. 従 事 人 員 2名(家族)

11. 操 業 方 法

夏5時, 冬6時半に1隻で出漁し, 漁場に向う。操業は袋網を固定しているロープをゆるめ, 袋網を手作業で揚げる。船上で漁獲物を選別し別し, 袋網は元の位置にロープをしめ設置する。

スズキ, タイ, ヒラメ, チヌ, ミズイカ等は, 活間で活かす。

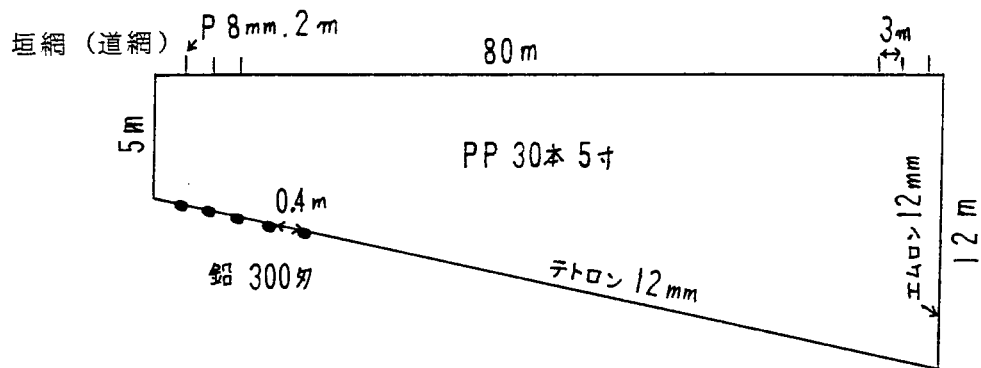
3つの袋網を揚終えたら市場へ向かう。すべての作業が終了するのは8時ごろである。

網替えは, 2週間毎に4~5名を雇って手作業で行なう。

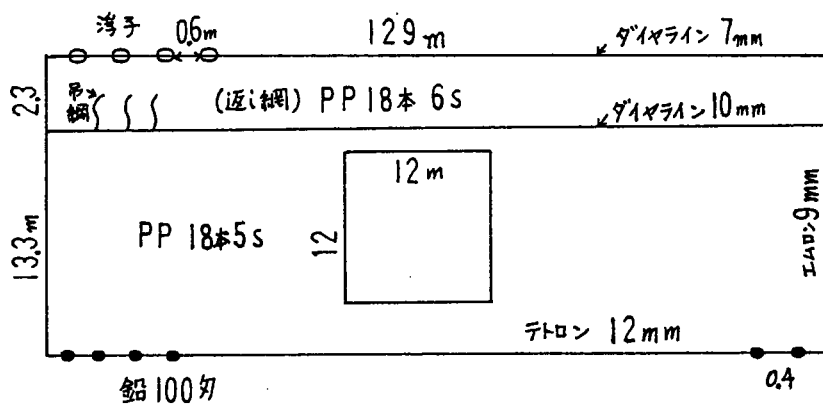
12. そ の 他

網の購入価格は2統で500万円(S52年購入時)

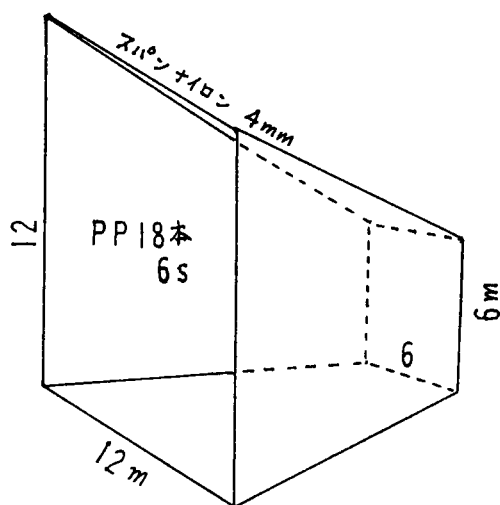
船は2隻で450万円



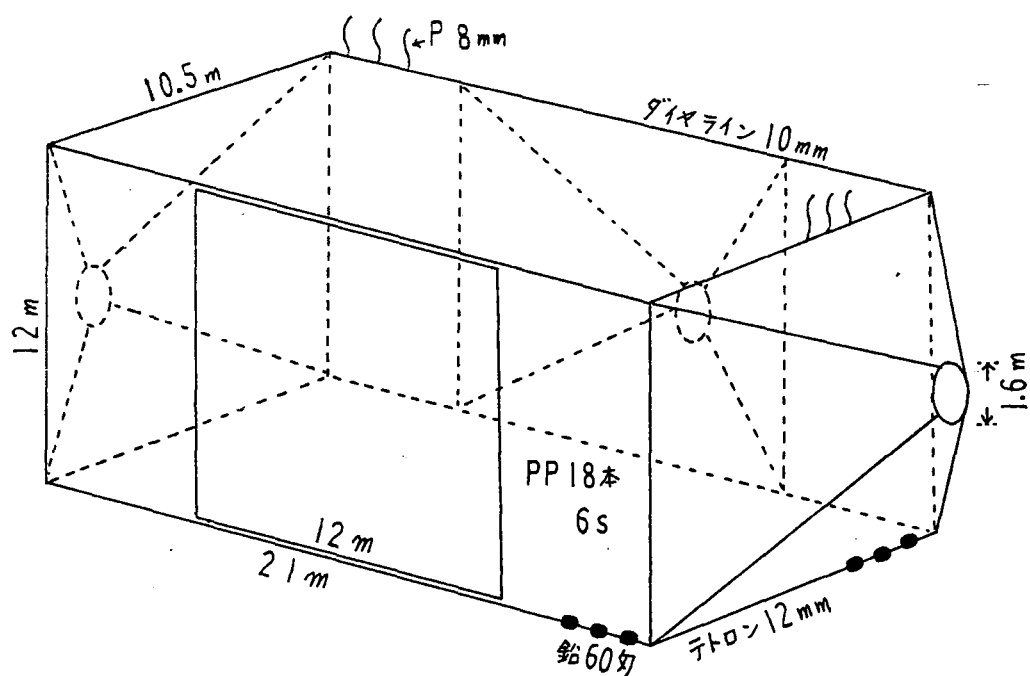
身 網



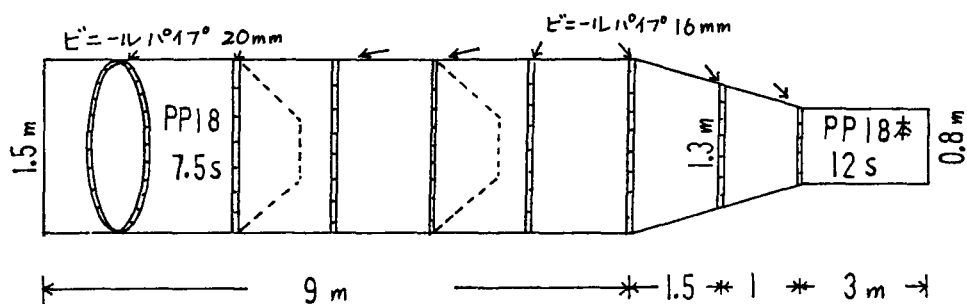
ジョウゴ (返らず網)



箱 網



袋 網



c. 小型定置網(2)

1. 調査場所 喜入町漁業協同組合 生見漁場
2. 操業形態 個人
3. 設置期間 局 年
4. 水 深 5 m
5. 網の種類 ます網(つば網)

1) 側張りの構成

部 位	材 料 ・ 規 格	数 量
側 網	ポリエチレンロープ 22 ㎜	
運動場・箱網・ 袋網取り付け ロープ	〃	
碇	60 Kg (両爪)	1
〃	40 Kg (片爪)	17
側 浮 子	1.5 m×0.8 m 円筒状発泡スチロール	23

2) 網の構成

部 位	主 な 材 料 ・ 規 格	目 合
垣 網	PP (ポリプロピレン) 30本	5 寸目 3 節
運 動 場	PP (〃) 18本	5 節
箱 網 (ねずみ)	PP (〃) 18本	8 節
袋 網	PP (〃) 18本	12 節
(魚とり部) 罟	PP (〃) 18本	16 節

6. 使用 船

船外機 (40 P.S) 付漁船 0.8 t

7. 付 属 機 器

名 称	数 量	備 考
ポ ン プ	1	1 0 P.S (洗網用)

8. 主な漁獲物 水イカ、コゼン、コノシロ、クロ、イシダイ、ハマチ
(2年程前までは、ヒラス、ブリも入網していた)

9. 水 揚 状 況 4 5 0 Kg, 約 1 0 0 万

10. 従 事 人 員 1 人

11. 操 業 の 方 法

朝 4 時に漁場に向う。繋船位置から漁場へは 1 分で到着。

船をねずみ取網部のロープに固定し環締ロープ(滑車付)で袋網を
揚げる。終了後は、環締ロープで締め、袋網を張る。

1 袋部を 1 5 分で終る。3ヶ所 4 5 分で終了する。

5 時に陸へ到着し、集荷車で鹿児島市へ向う。

12. そ の 他

喜入町漁協 8 統(いづれもつば網)中一番小型である。

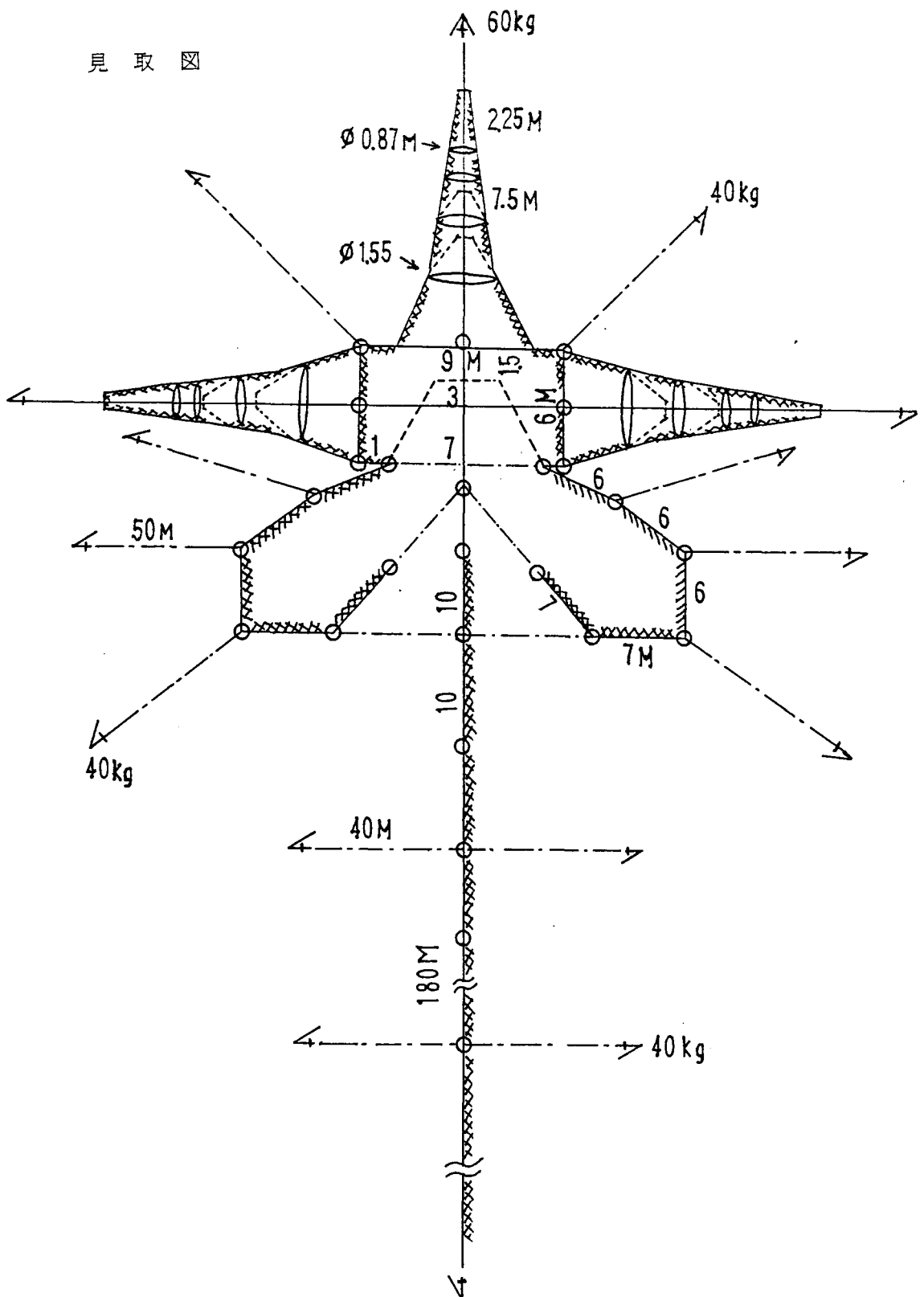
S 4 8, 6 5 万円で設置。(現在時での設置推定価格 1 5 0 万円)

4 ~ 5 年毎に部分的に網をとり替える。本年度は垣網を変えるため

1 反の網地(8 万 4 千円)を購入、仕立中である。

喜入町漁協の定置水揚額の平均は、1 2 0 ~ 1 3 0 万円。

見取図

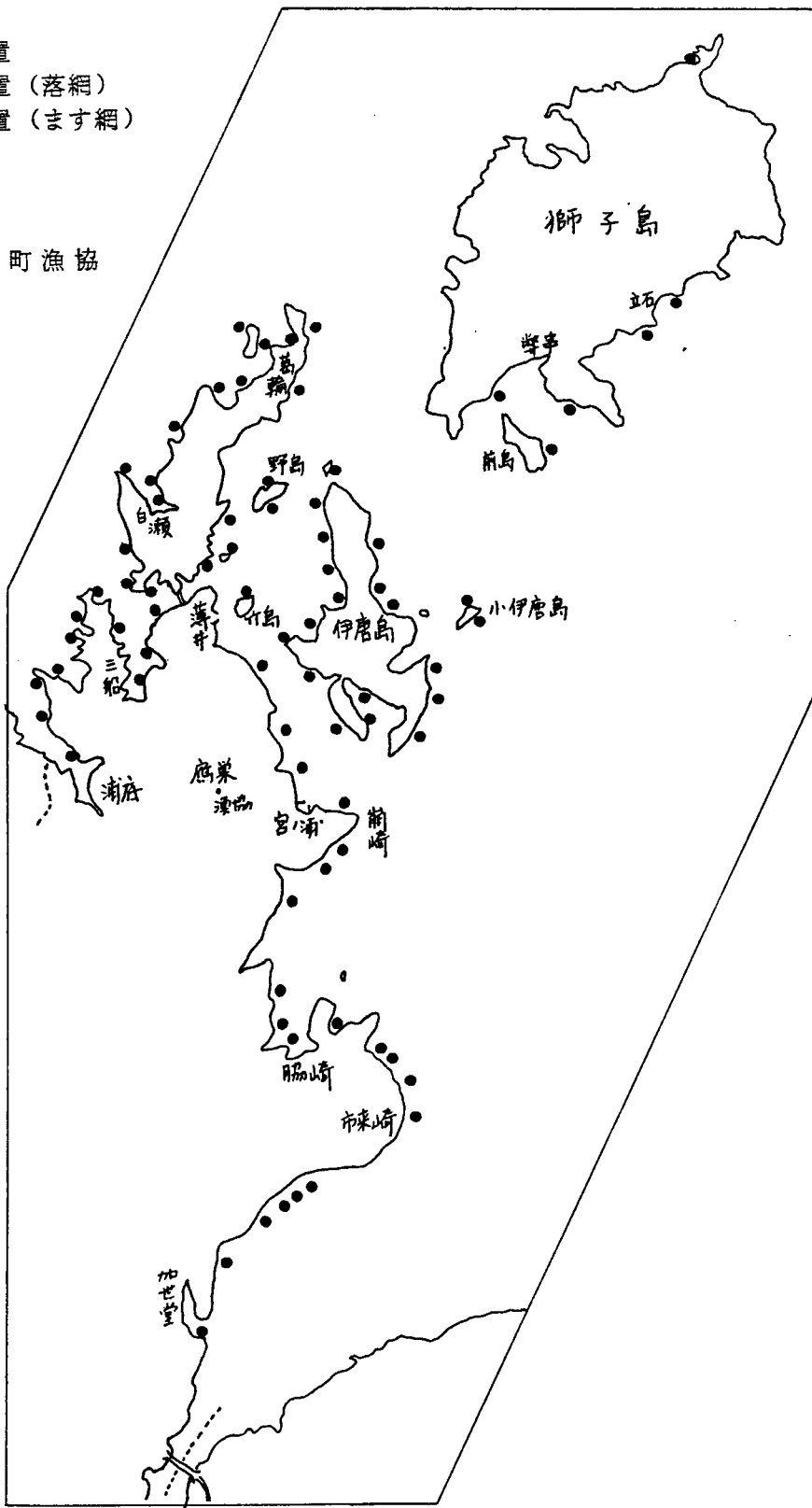


附 屬 資 料

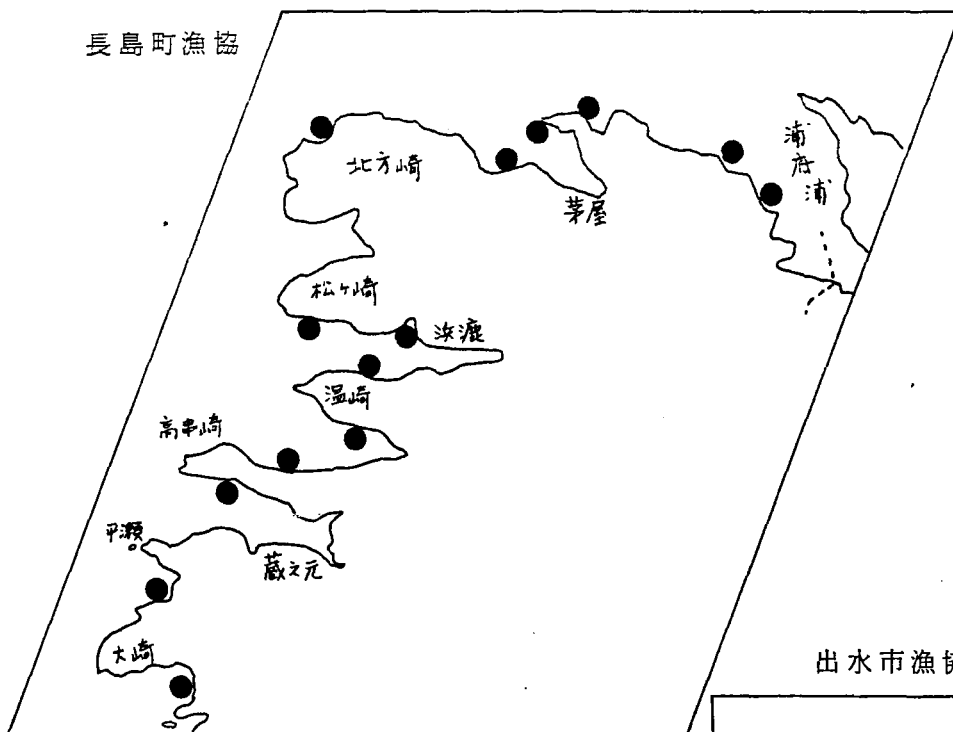
漁協管内定置網位置図

- ▽ 大型定置
○ 小型定置（落網）
● 小型定置（ます網）

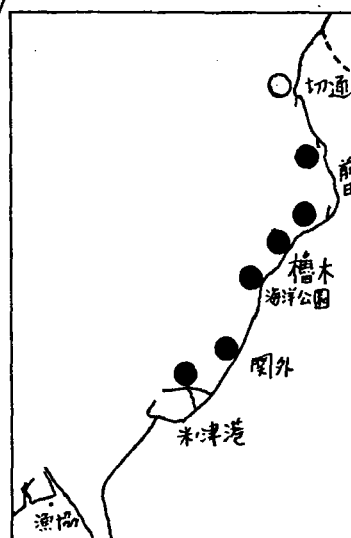
東町漁協



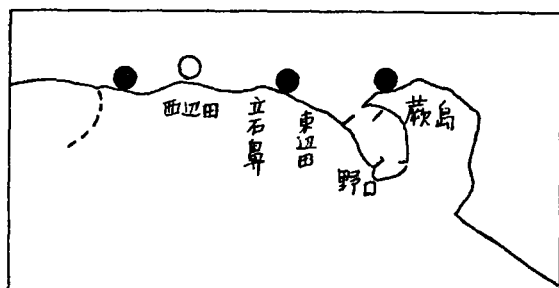
長島町漁協



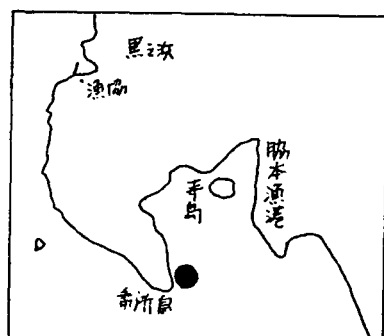
出水市漁協 2



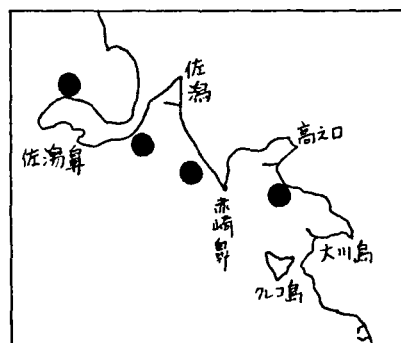
出水市漁協 1



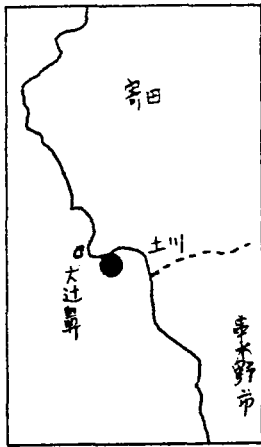
黒之浜漁協



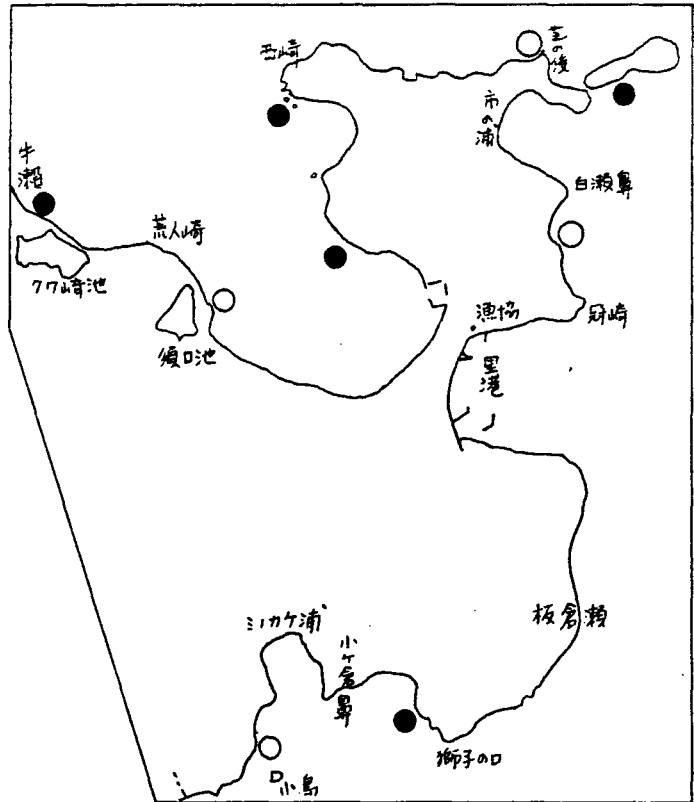
西目漁協



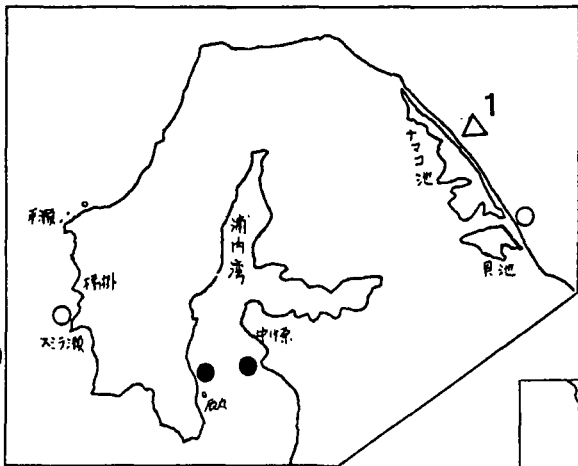
川内市漁協



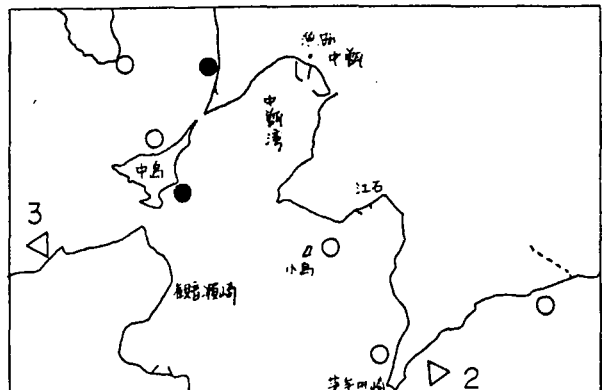
里村漁協



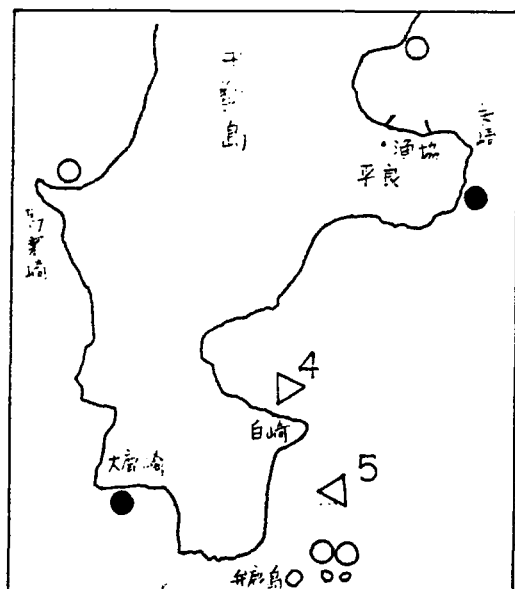
浦内漁協



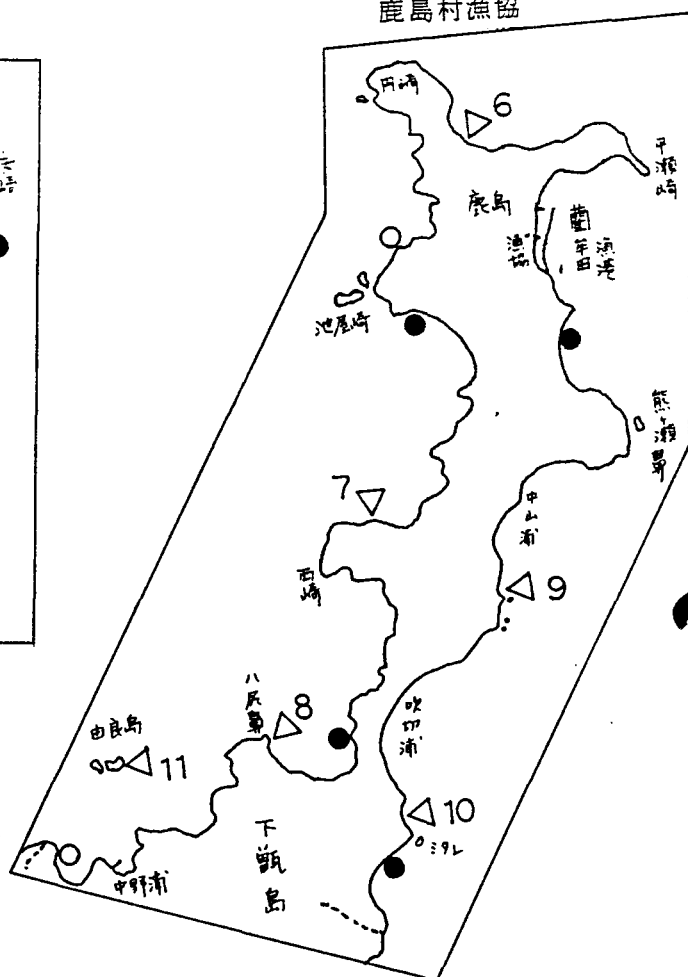
上甕漁協



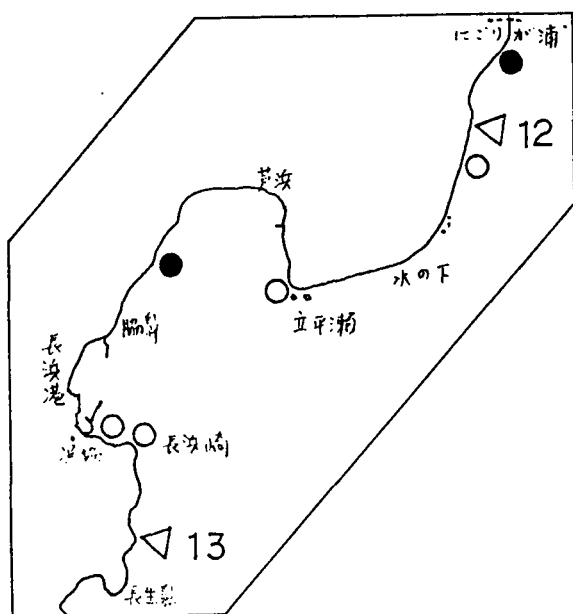
平良漁協



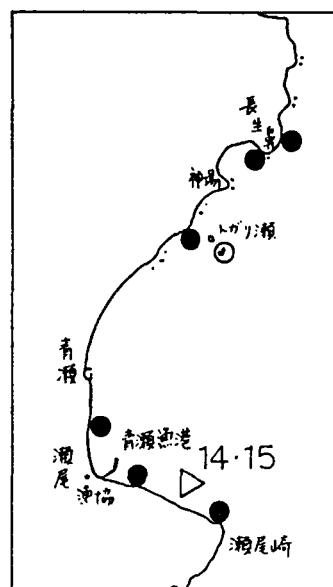
鹿島村漁協



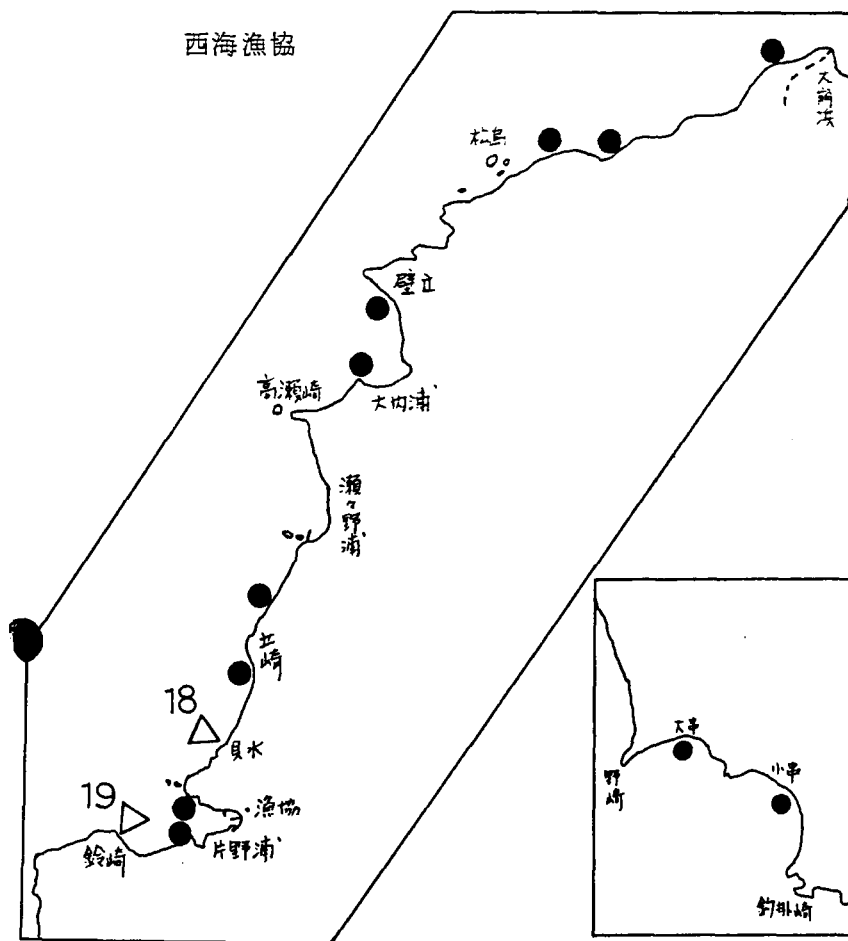
長浜漁協



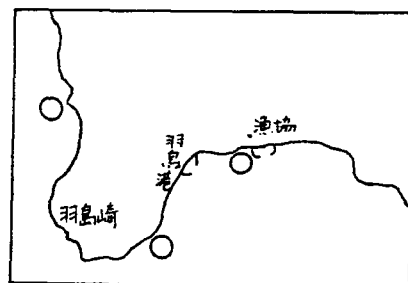
青瀬漁協



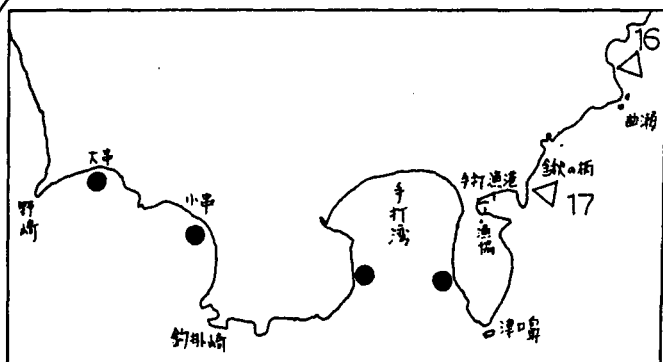
西海漁協



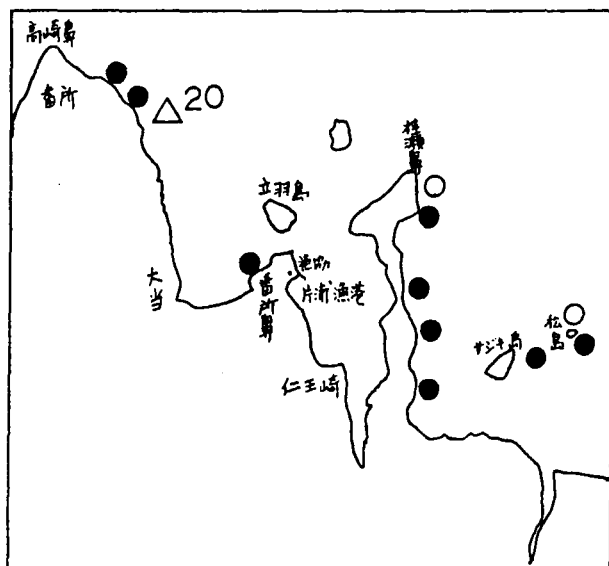
羽島漁協



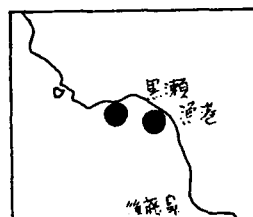
手打漁協



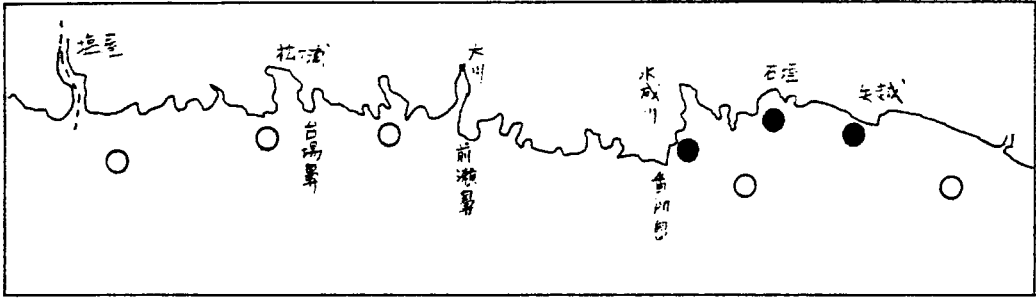
笠沙町漁協 1



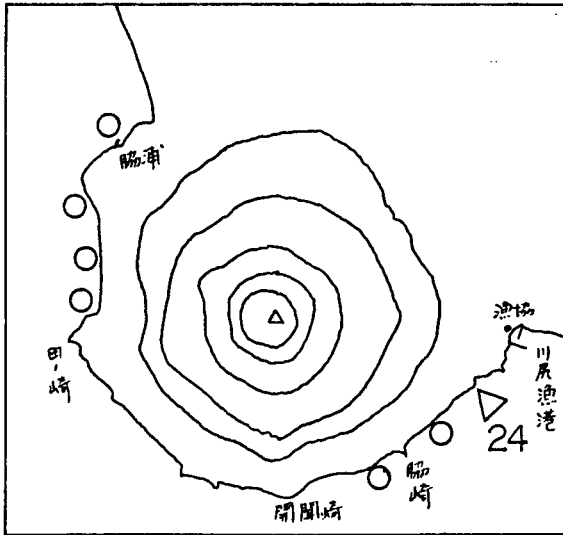
笠沙町漁協 2



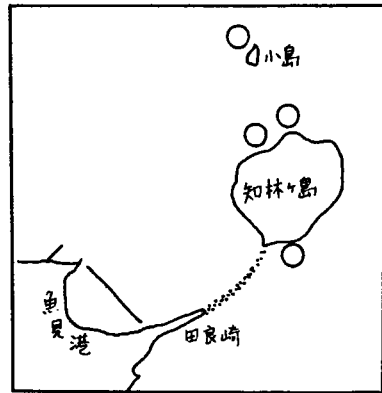
かいてい漁協 1



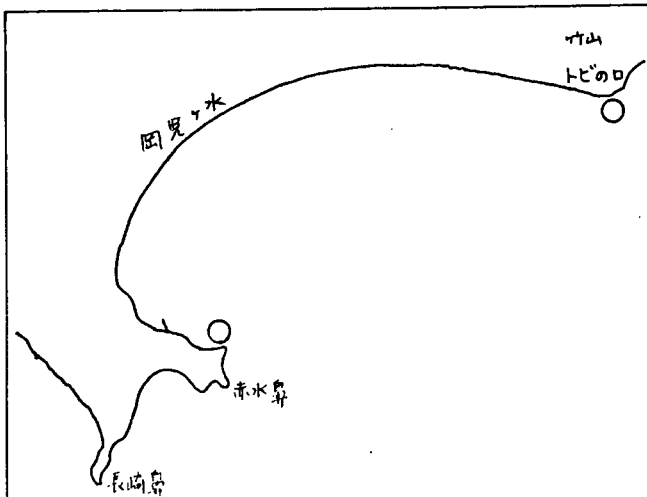
かいてい漁協 2



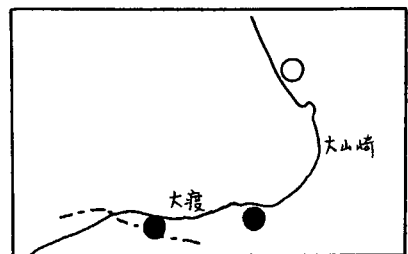
指宿市漁協 1



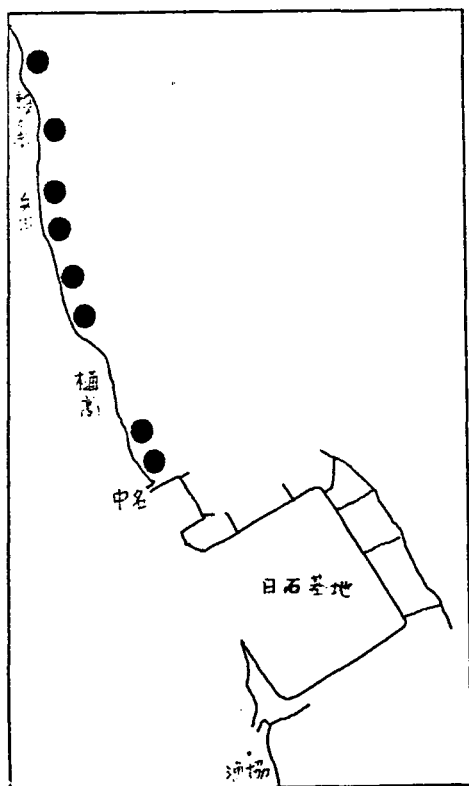
山川町漁協



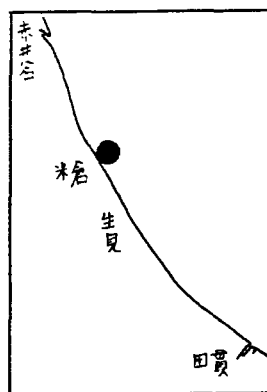
指宿市漁協 2



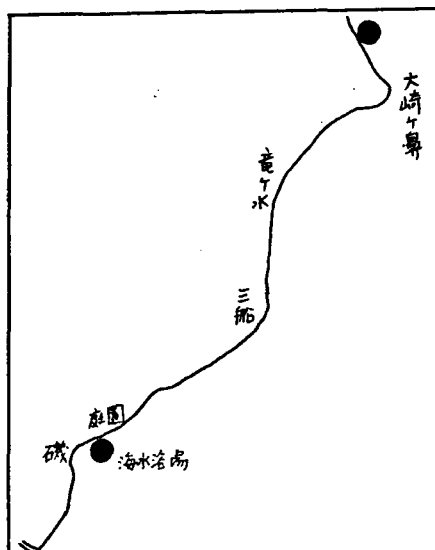
喜入町漁協 1



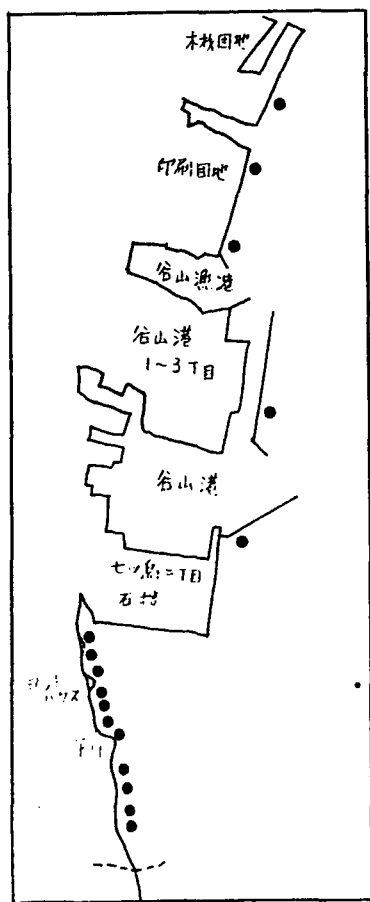
喜入町漁協 2



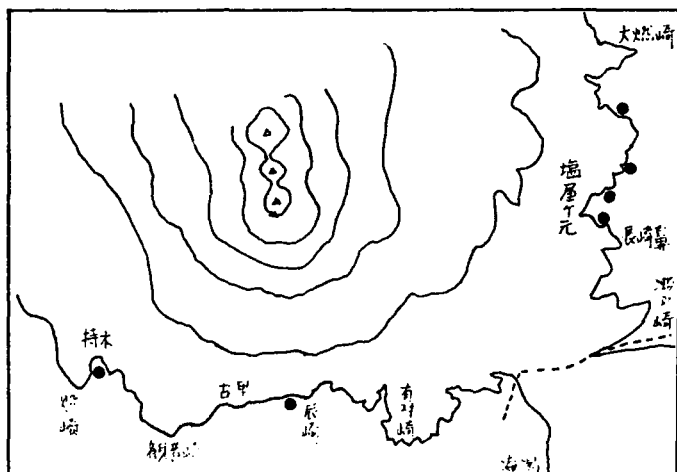
鹿児島市漁協



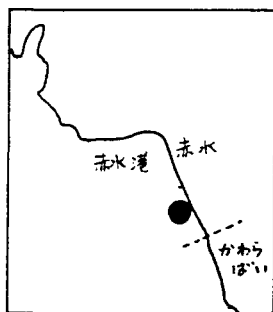
谷山漁協



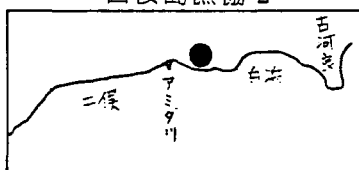
東桜島漁協



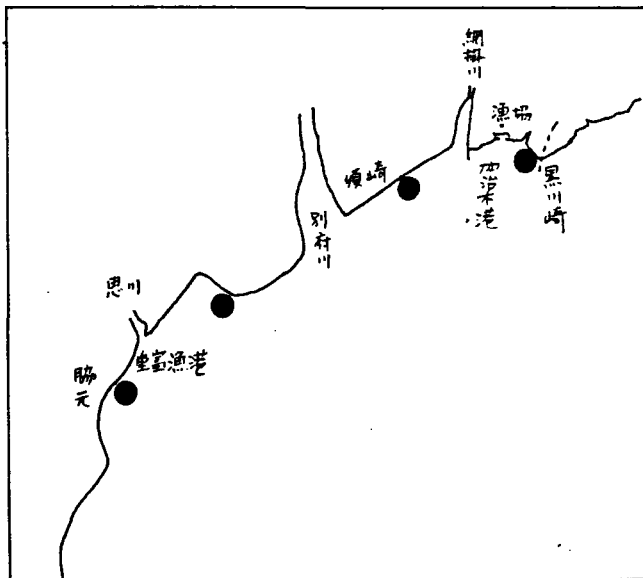
西桜島漁協 1



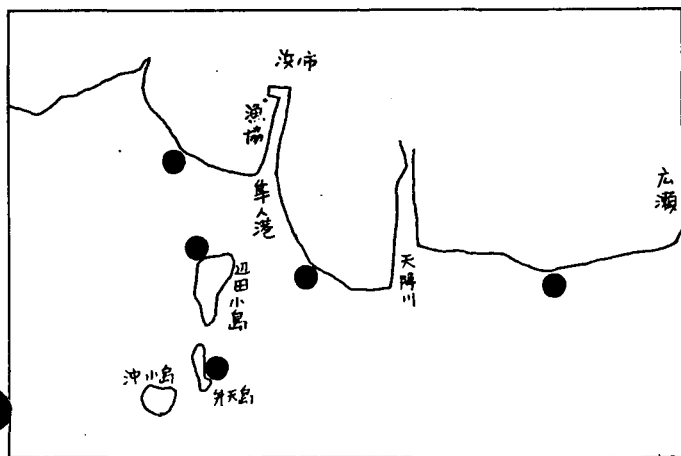
西桜島漁協 2



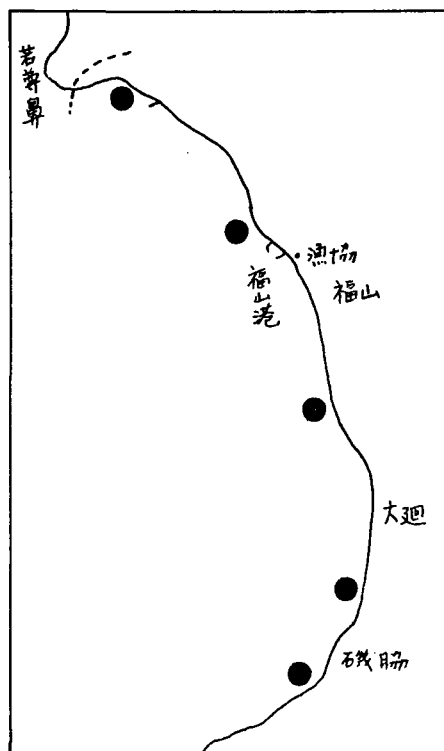
錦海漁協



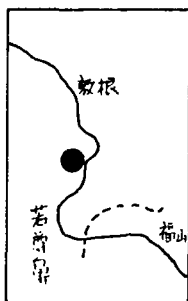
錦江漁協 1



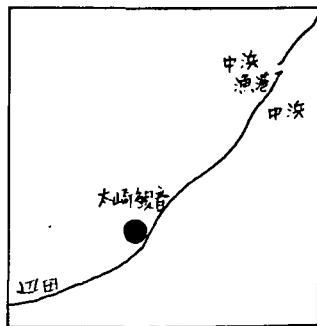
福山町漁協



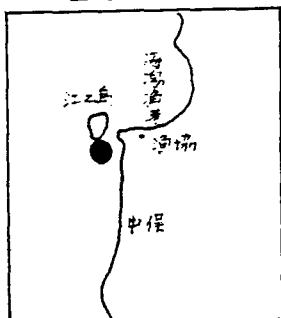
錦江漁協 2



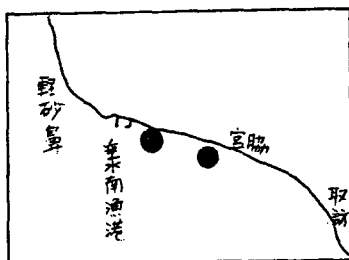
牛根漁協



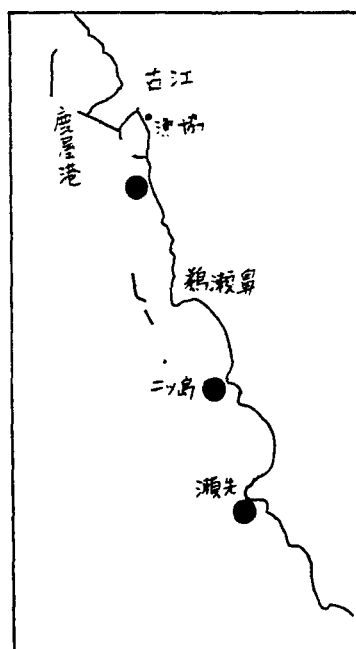
垂水市漁協 1



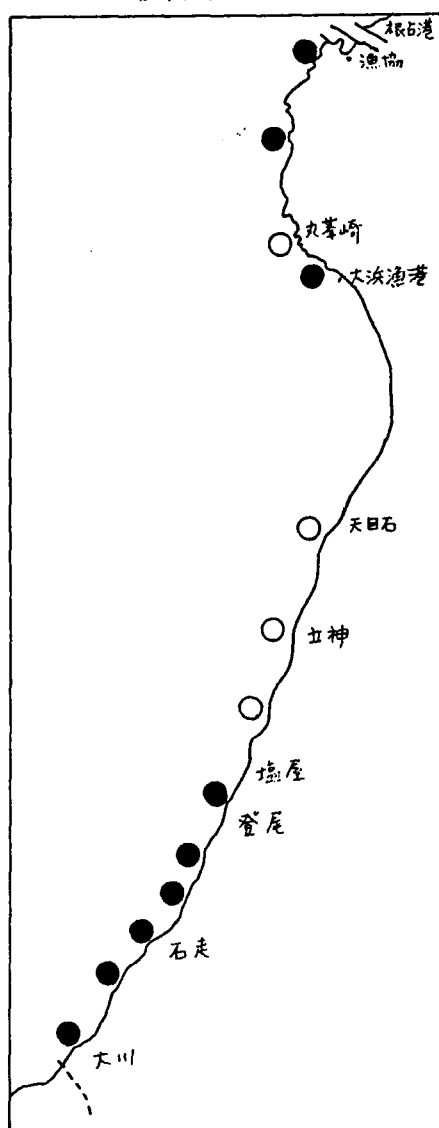
垂水市漁協 2



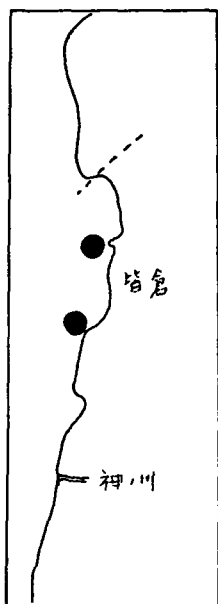
鹿屋市漁協 1



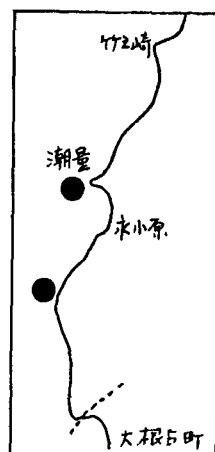
根占町漁協

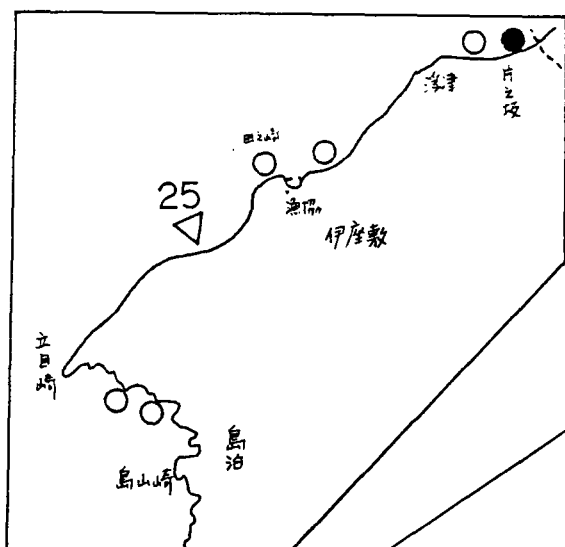


大根占町漁協



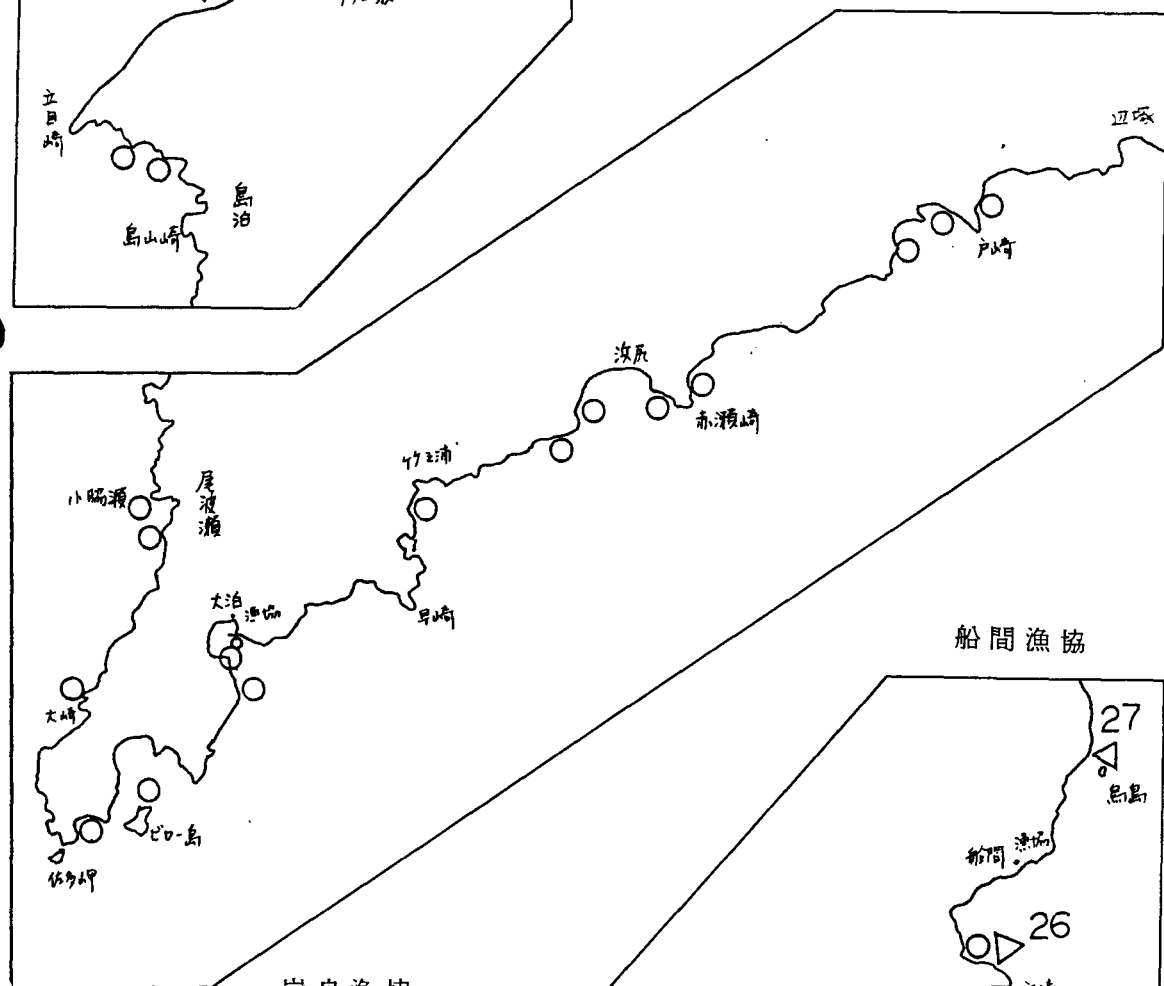
鹿屋市漁協 2





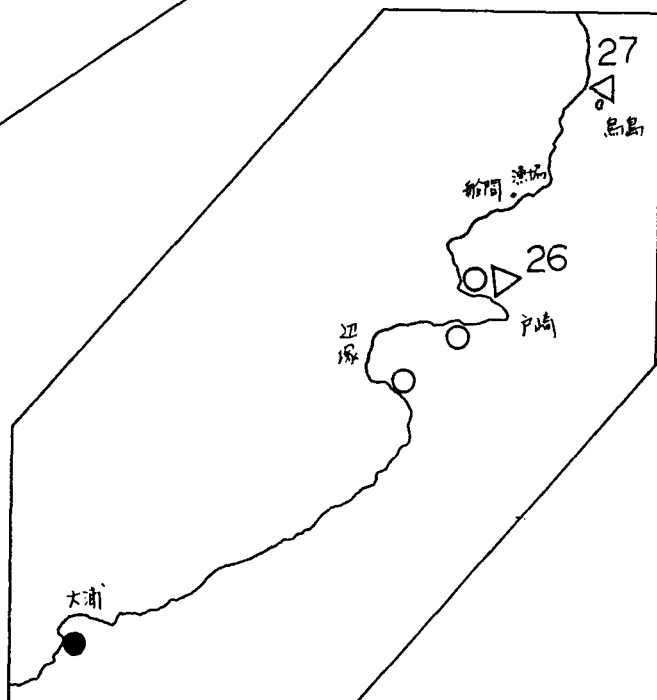
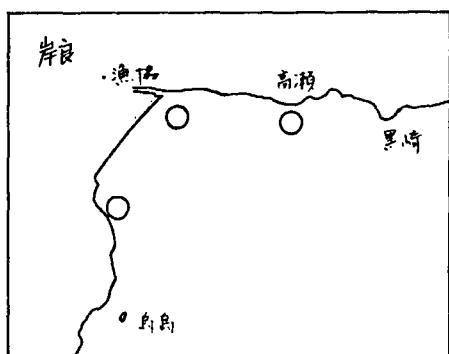
佐多漁協

佐多岬漁協

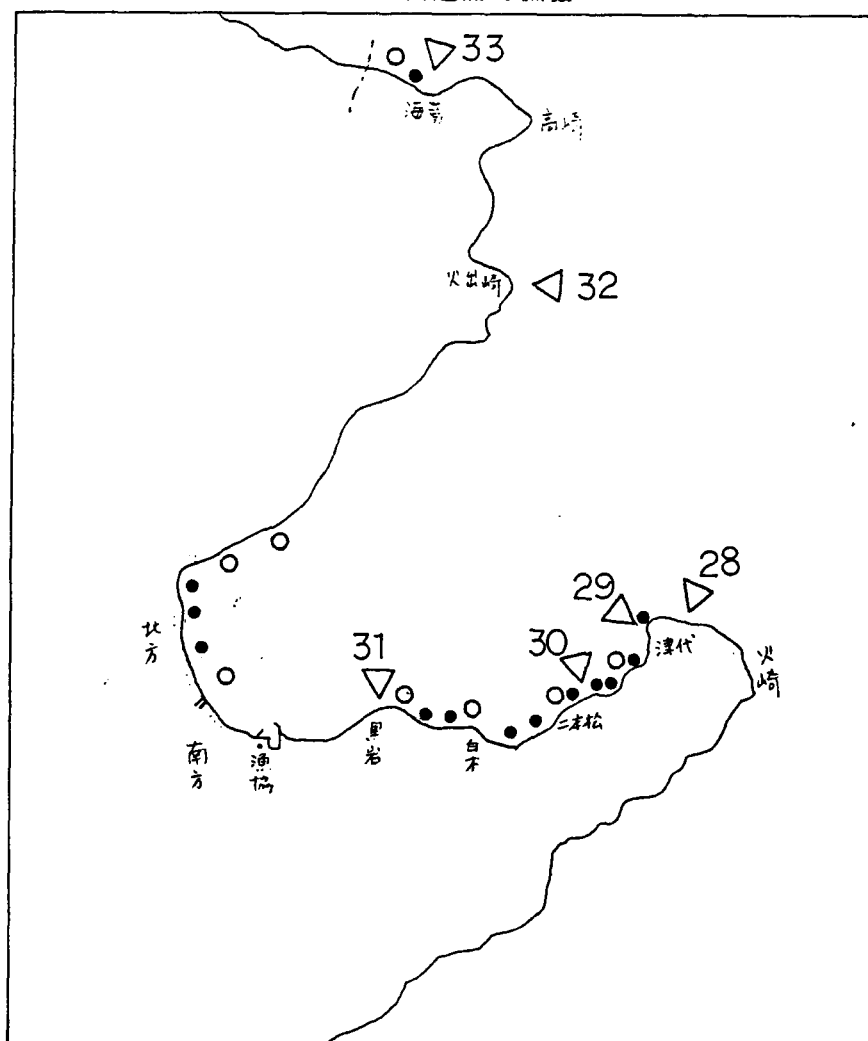


岸良漁協

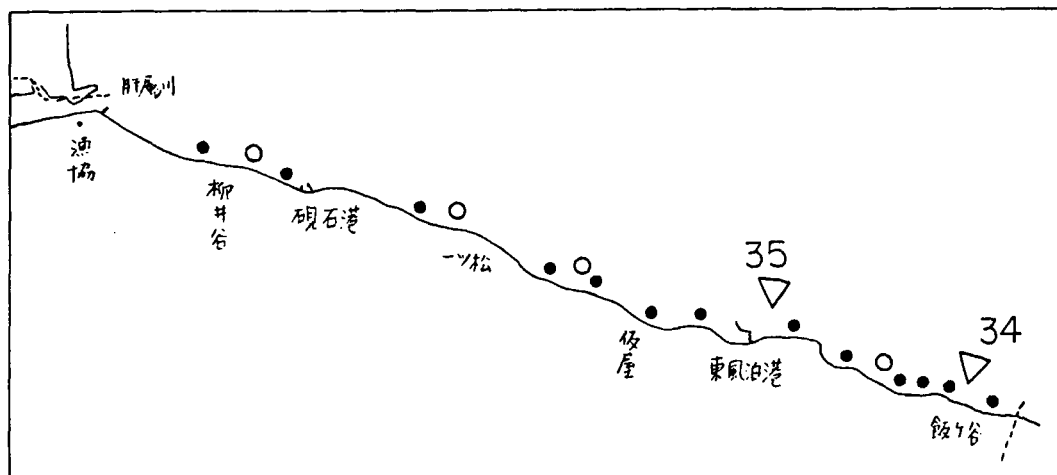
船間漁協



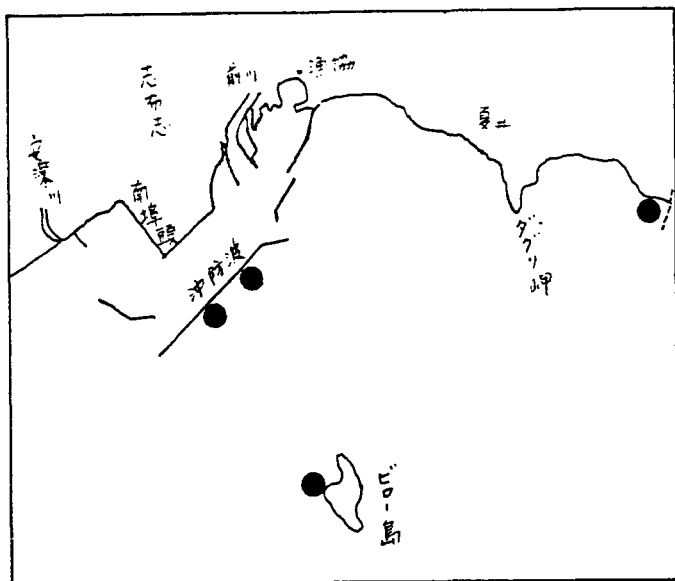
内之浦町漁協



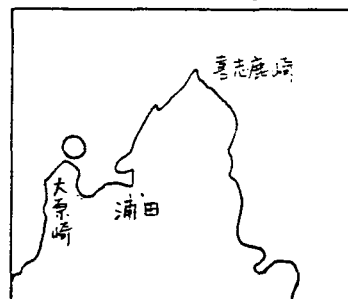
高山町漁協



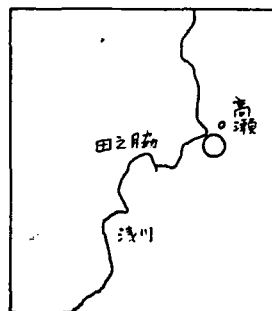
志布志漁協



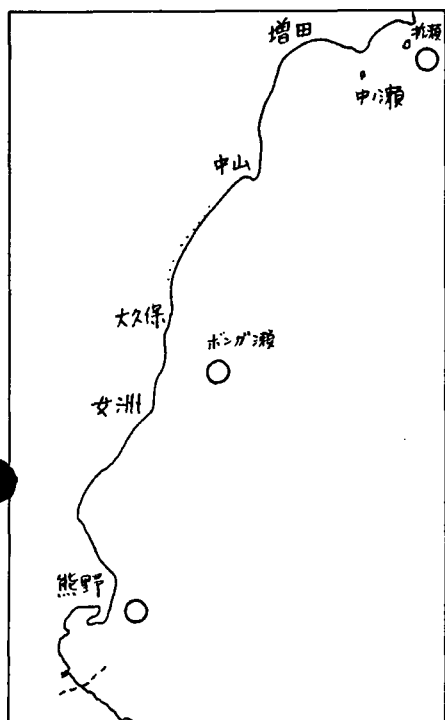
西之表市漁協 1



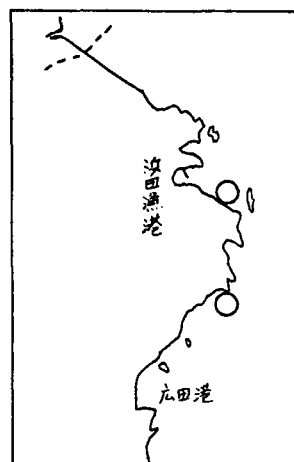
西之表市漁協 2



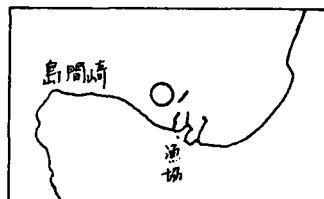
中種子町漁協



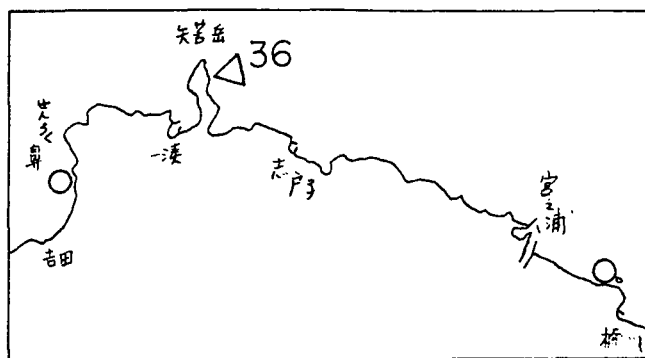
南種子町漁協 1



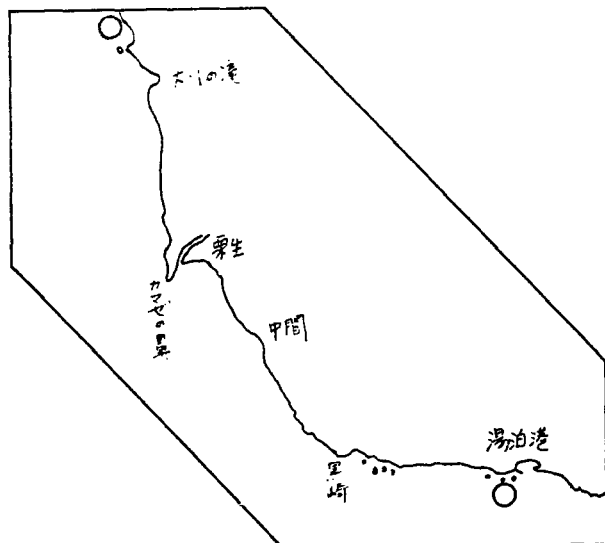
南種子町漁協 2



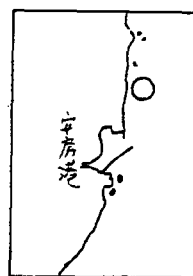
上屋久町漁協



屋久町漁協 1



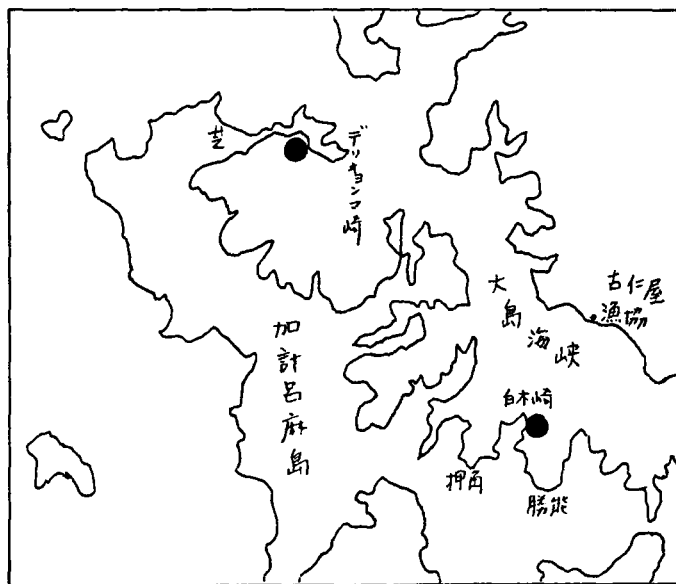
屋久町漁協 2



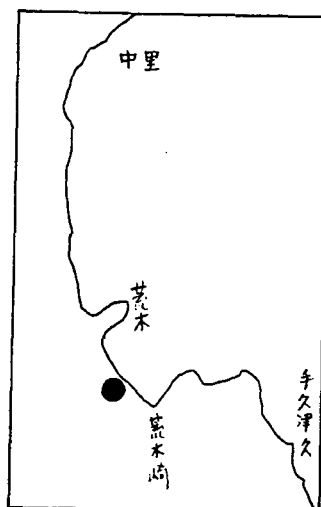
名瀬漁協



瀬戸内漁協



喜界島漁協



新聞記事にみる昭和初期の定置漁業状況

〔鹿児島朝日新聞 昭和7年8月8日……内之浦町史（昭41）から再掲〕

昭和の初めにおける漁法やその経営を理解するため、新聞記者の体験記事を抄録した。

○銀鱗踊る南隅の灘に漁師納屋の生活県下肝属郡内之浦が、鰯の定置漁業で全国有数の地であることは今更申すまでもないが、今、僕は銀鱗踊る南隅の……其の有名な漁場の灘に居ります。

鰯の最漁期は3月桜の頃で、5月上旬に終るが、只今鮭の夏網が始まっている。ここのは大謀網と大敷網である。進歩改良された大謀式が主だ。地形に依っては大敷でなければいけない所もある。僕は此の漁場戦線の第一線にある漁師達と一緒に灘の納屋で実生活に触れて見た。

灘というのは、内之浦湾内海の小谷津代二本松白木等漁場の総称であり一帯の地名である。外海に突出せる鼻を火崎と呼ぶ。昭和4年7月10日大山津浪で崩壊し、死者14名負傷者数十名という悲惨事の記憶がまだ生々しいところである。200戸からあった津代部落も住むに余地なく今は漁場の納屋の外に23戸あるだけだ。

ここで1番珍しいものは魚見棚であろう。魚見棚を海上から眺めると、恰も樹上に拵えた家ようだ。それが高い山の鼻に在る。登って見ると樹の上に拵えてあるのではなくて、櫓だ。櫓が樹木の茂みからにゅっと突き出ている。大きな猛宗竹の梯子が掛けてある。猛宗竹の梯子を登るまでは樹木が眼界をさえぎっているのでさほどでもないが、1番上の梯子段を辛じてよちて棚にはい上ったが最後までとても眼がくらくらする。棚は山の上の又其の樹木の上に海に垂直になるように拵えてあるから数百尺の断崖に立っているようだ。真下の海は樹木の茂みでドス黒い色をしている。棚は3畳敷だ、屋根は苫だ、煮炊きする七輪の鍋には小鯛の鮮魚がぐつぐつ煮立っていた。漁場一帯から水平線の彼方まで一眸の内に収むる展望台だ。

魚見の小父さんは朝から晩までじっと坐ったまんま視線を海面から離すことは絶対に出来ない。只用便の折副棚に引継いで下りるだけだ。飯を喰うにも茶碗は見ない。僕が「小父さん」と呼んでも首一つ動かすでなく、石の地藏さんが坐って御座らつしゃると同然……向う向いたまま「なんでゴザリ申すかい」と答えた、海を見る以外は全くの盲目同然だ。「小父さんそう朝から晩まで海ばかりしにら

んで坐り詰めちゃ睡気が出はせぬですか」「はは漁師の倅に生れて何十年日日毎日斯うやって棚をつとめて来たんでさあ、眼が馴れっこになっているせいか、海さえ見ていりやッ睡くもなんともあらし申さぬがナ」習慣……性となる全くだ。ようまあ辛棒すできるものだ僕も感心した。棚には3人上っている。魚見の全責任を負っている者を本棚と称し、同側に副役が控えているその副役を副棚と呼んでいる。も1人の者を普通飯焚きという。本棚も副棚も飯焚きも3人共海ばかりにらんでいる。だが飯焚きの方は御飯時には御飯をつけたりお茶を入れたり給仕みたような仕事を引受けている。だから飯焚きというんだらう。お寺にすれば所謂味噌摺小僧でやがて本棚になる修業中のものだ。本棚は権式のあるもので、副棚が仮令先に魚群を発見しても本棚が口を切らぬ以上は「あそこに見えた」ということは出来ない。「見えたゴたる」という言葉を使わねばならぬ……すると本棚が「うん見えた」と答える。本棚が「見えた」と断定的に宣言するとさあ大事だ。忽ち漁場には大活動が開始されるのである。又其の大活動たるや一絲乱れぬ統制ぶりだ。

その一絲乱れぬ活躍振りを展開する前に、もっとこの漁場第一線に働く漁師隊の編成振りが必要だ。それは先ず網元が漁師（現業員）の顔役と漁場の契約をする。例えば「甲の漁場に70人使え」と斯う契約がなったとする。その顔役を網細工……アンジャクと読む」又は「大将」と呼んでいる。漁場を引受けた網細工は漁場第一線の編成に掛る訳だが、大将の苦心するのは、本棚を誰に頼むかの問題だ。棚と網細工がちぐはぐでは仕事は出来ない。棚がきまれば早速漁師達を狩り集めるんだが普通の漁師達を網子と呼び、最高幹部が網細工と本棚だ。網細工は又自分の下に「帳面方を任命する、すべて本棚と相談してやる、恰も内閣を組織するような工合になっている。網子の給金は今年小学校を卒業したばかりの小僧でも働き盛りの壮丁でも又老寄りでも押なべて同額の給金を貰うことに昔から決められている。網細工と本棚は2人前の給金だ。副棚が1人前と7分、帳面方が1人半前、棚の飯焚きもその名前は余り栄えないが帳面方と同格で1人半前を貰っている中幹部格だ。下ってハ網船頭、団平船頭、伝馬船頭など責任者が定められているが、それ等の給金は別に差当はない。皆1人扶持だ。然し後で慰労金を網細工が手加減して分配するようになっている。賃銀は1日1人30銭乃至25銭位の程度で外に1日1人米6合味噌16匁が分配される。それは網細工の命令を受けて帳面方が切り廻す。漁場第一線の総師は即ち網細工で、本棚は最高顧問格である。本棚は棚の上で2本の御幣を両手に握っている。「おおーい」と叫ぶ相図

も神前の警ひつ三声のようだ。その御弊が海との信号機なのだ。

ただいま夏季鮪の大謀網は片廻り90間のだ円形に張られている。浮きは大きな猛宗竹を束ねたものだ。土台になる浮きは100本位も束ねてあるが周囲のは56本宛だ。片方中央部に約20間位空けてあるが鮪のはいり口だ。口の片側からは又突抜けてしまわぬように道網が敷いてある。鮪群は游泳して遊びながら網に入り込むのである。これが鰯漁期の網になると夏敷の2倍以上もの大きなものになる。網子も従って2倍以上になるが、目下どの漁場でも大抵70名位を使っている。一艘に78名乗り込んだ船が、網の口に2艘宛はいつも付いている。他の網子達は45艘の団平船を岸につないで、何時でも漕ぎ出す用意を整え、網子達は納屋に引上げて網の修理などをなしている。これが所謂待機の姿だ。

棚から合図が掛ると、網の口に漂っていた4艘の船は忽ち共同動作を開始して網の口を締めにかかる。同時に納屋の網子達も一斉に団平船を漕ぎ出し忽ち部署に就く。斯うして網は揚げられるのである。エイサエイサ漕ぎ寄せつつ魚を引き上げて船に移しつつ漕いで行く。大漁の時は「市袋」という袋にこさっ込む。魚は白い腹を返してピンピン飛び交わす。長柄の勾でそれを引ッ掛ける。壮観なものだ。全く素晴らしい。……中略……網元から見張りの役の事務員が送ってある。それを監督という。

網は夏期の今は朝の5時と、夕方の5時の1日2回は魚が入っていようがいまいが定時に揚げる。朝のを「明け持ち」と云い、夕方を「時持ち」という。魚見の責任者本棚たちは「明け持ち」と同時に棚に上る。それから終日見張りして「時持ち」の時刻が来れば下りて家に引揚げる。棚は漁師なら誰でもという訳には行かぬ。3月頃の鰯になると浮いて遊ぶから白い腹を返したりするので見易い……だがそれもほんの近くに來てからのことだ。魚の背は海の色と同じ保護色だ。それを見分けるんだから余程の修練と経験を積んだものでなくては見ることは出来ない。海の色で見分けるんだがどんな色だと説明することは出来ぬと云っている。そして魚の進行と又遊び工合とそして時間とを測定して、何時何分には網までやって来るとちゃんと測定する。ここが大事だ。下手をするとまだ入り切らぬ内に揚げてしまう。ぐずぐずしていると後の魚群がまたやって来る。測定は機械1つ用いるんじゃないが、全く感心なものだ。経験で体得した心眼でびったりと断じた観測は決して過らぬ。だから棚の家柄は代々決っている。昔長崎五島方面から藩公が招いて引越した漁師達の子孫らしいが、田畑矢之助一家、立石勇吉一家、岡野半十一家、倉七次郎一家というのが如きが棚の家柄だ。それで魚見の秘伝は容

易に他人に明かされない。又誰でもが其の虎の巻は会得出来ないそうだ。

一と漁に1万尾の漁があれば、網元から赤鉢巻と赤兵児が網子一統に贈られる。元気澆刺とした赤銅色の裸体に真赤な褌と同じ赤の鉢巻をキリリッと結めて、わっしょいわっしょい村の産土神に駆足詣りする。

それが魚供養だ。魚供養は菩提寺にもお供養を上げて、数知れず人間の犠牲となる魚の霊を慰めるが、然しそれは春の鯺時期でなければ滅多に見られない。3万尾とれば更に「大漁記念」と染め抜いたイキな法被がまわる。若い衆はそれを楽しみにしている。

漁業は内之浦村産業の主要素だ。先代の峰崎次兵衛・池田盛右衛門・中俣健吉という人々は漁業開拓の恩人とされている。3名とも既に物故しているので、その人々を中心に村の産業功労者として、記念碑でも建設したいと村長白坂周造氏等に依って唱えられているようだ。何分新に一網入れると約3万円もの資本がいるので、現下の不況では合併する漁場もある。

例年2月10日が大漁記念日と定められている。此の日は村を挙げて大漁の前祝だ。浜の土俵で行われる青年達の相撲が大漁祝の呼び物となっている。

